

社会資本整備審議会 建築分科会 基本制度部会
防耐火認定小委員会
(第1回)

日程：平成20年6月5日(木) 14:15～16:00

場所：国土交通省(合同庁舎3号館) 11階特別会議室

議 事 次 第

1. 開 会

2. 議 事

(1) 防耐火構造等の大臣認定制度について

① 実態調査等について

- ・ニチアス(株)、東洋ゴム工業(株)
- ・書面による自主調査
- ・サンプル調査

② 今後の対策(不正受験の防止)について

(2) その他

3. 閉 会

社会資本整備審議会 建築分科会 基本制度部会
防耐火認定小委員会
(第1回)

資 料 一 覧

資料Ⅰ 性能評価試験における不正の概要

1. 不正受験の経緯
2. 現行の試験方法（不正受験が行われた試験について）
3. 不正受験の概要
(参考資料 現行の性能評価試験の概要)

資料Ⅱ 自主報告による実態調査の概要

1. 調査概要
2. 実態調査の結果（平成20年5月22日現在）
3. 国土交通省による企業への対応
(参考資料 所要の性能を有しない構造方法・建築材料(改修対象))

資料Ⅲ サンプル調査の概要

1. サンプル調査の概要
2. 調査結果（第2報・平成20年5月29日現在）
3. 国土交通省による企業への対応

資料Ⅳ 今後の対策について

1. 不正を覚知できなかった原因
2. 性能評価試験時における再発防止策

資料Ⅴ 今後の予定

社会資本整備審議会 建築分科会 基本制度部会
防耐火認定小委員会
(第1回)

名 簿

委員長	菅原進一	東京理科大学教授
委員	辻本 誠	東京理科大学教授
委員	古阪秀三	京都大学大学院准教授
委員	大滝 厚	明治大学教授
委員	清家 剛	東京大学准教授
委員	富田育男	社団法人日本建材・住宅設備産業協会 専務理事
委員	仲谷一郎	財団法人建材試験センター 性能評価本部副本部長
事務局	国土交通省住宅局建築指導課	

(以上、敬称略)

I. 性能評価試験における不正の概要

1. 不正受験の経緯

(1) ニチアス㈱による性能評価試験の不正受験

- ・ニチアス㈱が製造した繊維混入けい酸カルシウム板を使用した軒裏の準耐火性能評価試験及び間仕切壁の耐火性能評価試験において、試験結果に有利となるよう、規定よりも含水率の高い繊維混入けい酸カルシウム板等を用いた不正な試験体を使用して試験に合格し、大臣認定を受けていた構造方法が20件あったことが判明した旨、同社から国土交通省に報告があり、国土交通省では表1に掲げる構造方法について、当該大臣認定を取り消した。

日付	出来事
2007年10月17日	・ニチアス㈱より、本事案について国土交通省へ報告
10月30日	・国土交通省より記者発表 ・軒裏及び間仕切壁に係る構造方法の認定（16件）を取り消し
11月9日	・軒裏に係る構造方法の認定（1件）を取り消し
11月12日	・軒裏に係る構造方法の認定（1件）を取り消し
11月19日	・軒裏に係る構造方法の認定（2件）を取り消し
2008年1月7日	・原因究明・再発防止策に係る報告書を国土交通省へ提出

QF030RS-0037（準耐火構造の軒裏【30分】）

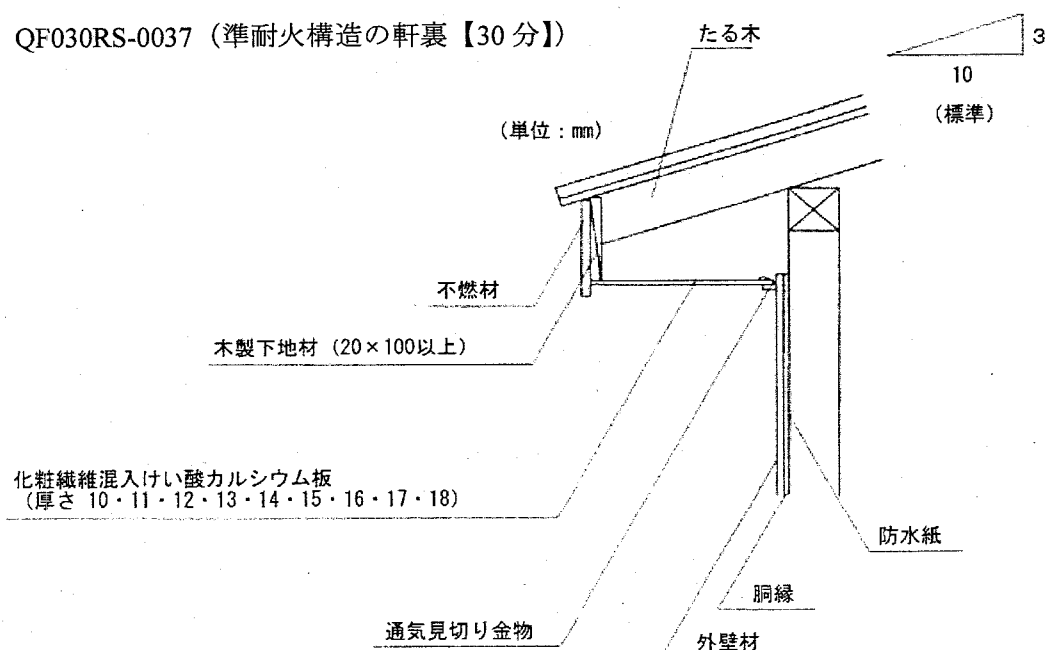


図1：不正受験に係る大臣認定仕様の代表例

認定を受けた構造方法の名称	認定番号	認定年月日	認定取消し日
準耐火構造の軒裏(30分)			
通気見切り金物付化粧繊維混入セメントけい酸カルシウム板張/中空木造下地軒裏	QF030RS - 0010	平成13年10月10日	平成19年11月9日
化粧有孔バルブ混入セメントけい酸カルシウム板張/木製下地軒裏	QF030RS - 0025	平成14年8月22日	平成19年11月12日
塗装溶融アルミニウムめっき鋼板製通気見切り金物・化粧バルブ混入セメントけい酸カルシウム板張/木製下地軒裏	QF030RS - 0031	平成14年10月25日	平成19年10月30日
塗装溶融アルミニウムめっき鋼板製通気見切り金物・化粧繊維混入けい酸カルシウム板張/木製下地軒裏	QF030RS - 0042	平成15年3月27日	平成19年10月30日
化粧溶融亜鉛めっき鋼板製通気見切り金物・化粧繊維混入けい酸カルシウム板張/木製下地軒裏	QF030RS - 0045	平成15年9月3日	平成19年10月30日
化粧溶融亜鉛めっき鋼板製通気見切り金物・化粧繊維混入けい酸カルシウム板張/木製下地軒裏	QF030RS - 0066	平成17年8月8日	平成19年10月30日
塗装溶融アルミニウムめっき鋼板製通気見切り金物・化粧繊維混入けい酸カルシウム板張/木製下地軒裏	QF030RS - 0037	平成15年2月28日	平成19年11月19日
化粧有孔繊維混入けい酸カルシウム板張/木製下地軒裏	QF030RS - 0039	平成15年2月28日	平成19年11月19日
準耐火構造の軒裏(45分)			
通気見切り金物付化粧繊維混入セメントけい酸カルシウム板張/木造下地軒裏	QF045RS - 0012	平成13年11月9日	平成19年10月30日
塗装溶融アルミニウムめっき鋼板製通気見切り金物・化粧繊維混入けい酸カルシウム板張/木製下地軒裏	QF045RS - 0036	平成15年2月28日	平成19年10月30日
塗装溶融アルミニウムめっき鋼板製通気見切り金物・化粧繊維混入けい酸カルシウム板張/木製下地軒裏	QF045RS - 0041	平成15年3月27日	平成19年10月30日
化粧溶融亜鉛めっき鋼板製通気見切り金物・化粧繊維混入けい酸カルシウム板張/木製下地軒裏	QF045RS - 0046	平成15年9月3日	平成19年10月30日
化粧溶融亜鉛めっき鋼板製通気見切り金物・化粧繊維混入けい酸カルシウム板張/木製下地軒裏	QF045RS - 0085	平成17年8月8日	平成19年10月30日
準耐火構造の軒裏(1時間)			
通気見切り金物付化粧繊維混入セメントけい酸カルシウム板張/木製下地軒裏	QF060RS - 0015	平成14年4月15日	平成19年10月30日
塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板製通気見切り金物・化粧バルブ混入セメントけい酸カルシウム板張/鋼製下地軒裏	QF060RS - 0026	平成14年8月22日	平成19年10月30日
塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板製通気見切り金物・化粧繊維混入けい酸カルシウム板張/鋼製下地軒裏	QF060RS - 0038	平成15年2月28日	平成19年10月30日
塗装溶融アルミニウムめっき鋼板製通気見切り金物・化粧繊維混入けい酸カルシウム板張/木製下地軒裏	QF060RS - 0040	平成15年3月27日	平成19年10月30日
塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板製通気見切り金物・化粧繊維混入けい酸カルシウム板張/鋼製下地軒裏	QF060RS - 0057	平成16年8月23日	平成19年10月30日
耐火構造の間仕切壁(1時間)			
両面繊維混入けい酸カルシウム板・せっこうボード張/中空軽量鉄骨下地間仕切壁	FP060NP - 0002	平成13年2月15日	平成19年10月30日
両面化粧繊維混入けい酸カルシウム板・繊維混入けい酸カルシウム板張/中空軽量鉄骨下地間仕切壁	FP060NP - 0005	平成13年3月23日	平成19年10月30日

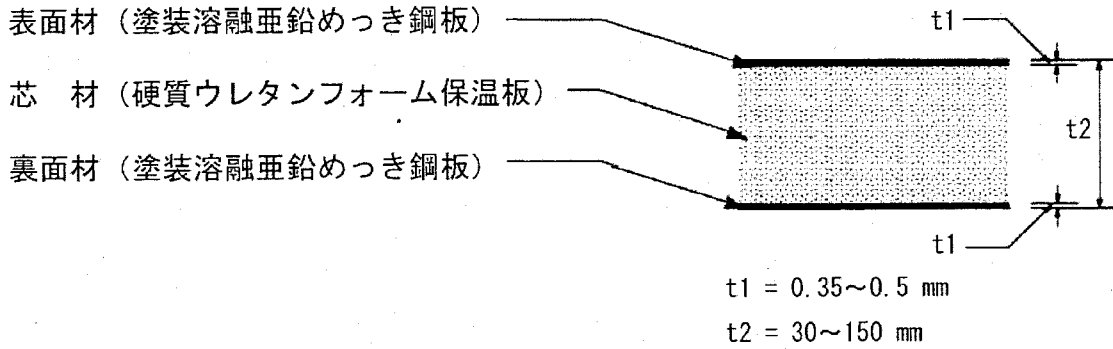
表1：ニチアス㈱が認定を受けた構造方法等のうち、取消しを受けたもの

(2) 東洋ゴム工業㈱による性能評価試験の不正受験

- 東洋ゴム工業㈱が製造した硬質ウレタン製両面金属面材断熱パネルの不燃性能評価試験等において、試験結果に有利となるよう、申請した仕様と異なる試験体を使用して試験に合格し、大臣認定を受けていた構造方法が6件あったことが判明した旨、同社から国土交通省に報告があり、国土交通省では表2の構造方法について、東洋ゴム工業㈱から不燃性能等を満足しない旨届出があったため、当該大臣認定を取り消した。

日付	出来事
2007年11月5日	<ul style="list-style-type: none"> 東洋ゴム工業㈱より、本事案について国土交通省へ報告 国土交通省より記者発表 外壁、不燃材料及び準不燃材料に係る構造方法の認定(6件)を取り消し
12月26日	<ul style="list-style-type: none"> 原因究明・再発防止策に係る報告書を国土交通省へ提出

NM-0769 不燃材料【20分】



PC030NE-9165 防火構造の外壁【30分】

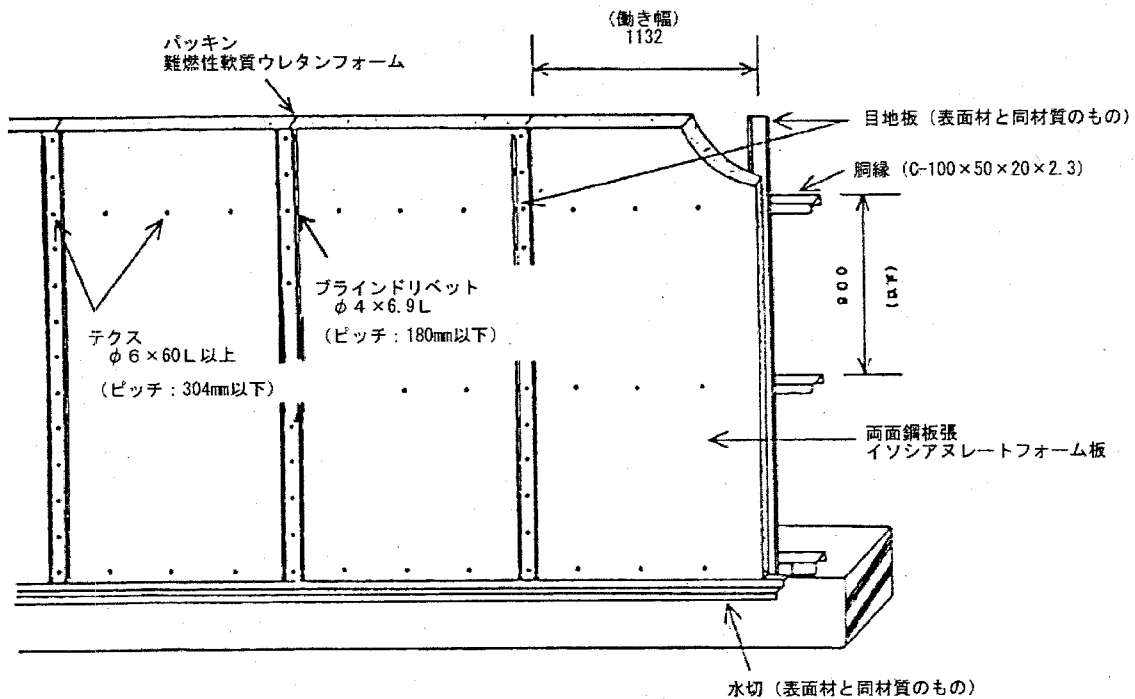


図2：不正受験に係る大臣認定仕様の代表例

認定を受けた構造方法の名称	認定番号	認定年月日	認定取消し日
不燃材料			
硬質ウレタンフォーム保温板充填／両面塗装溶融亜鉛めっき鋼板	NM - 0769	平成16年5月28日	平成19年11月5日
準不燃材料			
両面着色亜鉛めっき鋼板張／イソシアヌレートフォーム板	QM - 9763	平成14年5月22日	平成19年11月5日
両面アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板張／イソシアヌレートフォーム板	QM - 9764	平成14年5月22日	平成19年11月5日
準耐火構造の耐力壁(外壁) (45分)			
着色亜鉛めっき鋼板・イソシアヌレートフォーム・着色亜鉛めっき鋼板表張／せっこうボード裏張／軽量鉄骨下地外壁	QF045BE - 9194	平成14年5月22日	平成19年11月5日
着色亜鉛めっき鋼板・イソシアヌレートフォーム・着色亜鉛めっき鋼板表張／せっこうボード裏張／軽量鉄骨下地外壁	QF045BE - 9195	平成14年5月22日	平成19年11月5日
防火構造の非耐力壁(外壁)			
亜鉛めっき鋼板・イソシアヌレートフォーム・亜鉛めっき鋼板表張／せっこうボード裏張／軽量鉄骨下地外壁	PC030NE - 9165	平成14年5月31日	平成19年11月5日

表2：東洋ゴム工業(株)が認定を受けた構造方法等のうち、取消しを受けたもの

(3) 国土交通省の対応

- ・不正受験を行ったニチアス㈱及び東洋ゴム工業㈱に対しては、不正に取得した大臣認定に係る構造方法・建築材料を使用した建築物の特定と改善策を講じることを指示した。また、両者及び不適切な試験体の供出を受けた指定性能評価機関に対しては、原因究明・再発防止策の報告を指示した。

(4) ニチアス㈱の現在の状況

- ・ニチアス㈱からは、今回の不正事案の原因について、以下のように報告を受けている。
 - ① 担当部門における法令順守意識の欠如
 - ② チェック機能不全
 - ③ 社内規程の不備
 - ④ 企業の社会的責任に関する意識の不十分さ
- ・再発防止策としては、以下の項目を掲げている。
 - ① 消費者の観点に立った安全、安心に対する意識の向上
 - ② 品質保証体制の強化（組織変更）
 - ③ 認定に関する仕組みの改善
 - ④ ISO認証機関による品質保証体制の確認
- ・6月3日現在、認定が取消された構造方法を用いた建築物約40,000棟のうち、建築基準法違反の物件は約1,000棟であり、そのうち約290棟については改修工事が完了している。

(5) 東洋ゴム工業㈱の現在の状況

- ・東洋ゴム工業㈱からは、今回の不正事案の原因について、以下のように報告を受けている。
 - ① 事業化検討の不足
 - ② 経営判断の甘さと監査機能の不足
 - ③ 事業部での隠蔽体質
 - ④ コンプライアンス意識の希薄さ
 - ⑤ 独断専行のリーダーシップ
 - ⑥ 組織の壁
- ・再発防止策としては、以下の項目を掲げている。
 - ① 品質監査室の設置
 - ② 全従業員を対象としたコンプライアンス研修の実施
 - ③ 部門長を対象としたコンプライアンス特別研修の実施
 - ④ 内部統制システムの整備

- ⑤ 社員教育の徹底
 - ⑥ 事業監査・品質監査の徹底した推進
 - ⑦ 新事業・設備投資・出資等に関する決定プロセスの改善・強化
 - ⑧ 内部通報制度の活用促進
 - ⑨ 企業ブランドに係る価値観の共有と伝道
- ・ 6月3日現在、認定の取消しを受けた構造方法・建築材料を用いた建築物約180棟のうち、建築基準法違反の物件は約140棟であり、そのうち約20棟については改修工事が完了している。

2. 現行の試験方法（不正受験が行われた試験について）

(1) 現状の防耐火構造及び防火材料の性能評価試験における試験体の取扱い

i) 試験体作成の考え方

- ・試験は、実際の火災を想定し、原則として実際のものと同一の材料・構成からなる試験体を作成し試験を行っている。
- ・このため、申請者から依頼のあった段階で機関がヒアリングを行い、複数の仕様がある場合は最も不利な条件で試験を行うこととなるように試験体のバリエーションを指定して、実際のものと同一の仕様の試験体として作成することとしている。
- ・あわせて、試験体から含水率等を直接測定できない場合にあっては、試験体と同一の作成ロットからカットサンプルを取り、湿式の材料など養生が必要な場合は試験体と同じ条件で養生することとしている。

ii) 試験体の作成

- ・申請者は、機関の指示に基づき、自社若しくは試験体製作者等において試験体の製作・養生を行い、完成後、カットサンプルとあわせて、機関の試験場に搬入している。

iii) 試験体の受入れ

- ・搬入された試験体については、試験担当者が試験体製作図等に照合しつつ、次の事項について確認を行って、機関は試験体を受入れることとしている。

- ① 数量、外観上の損傷等の有無
- ② 試験体製作図との照合による外観形状、部材配置及び部材厚み寸法
- ③ カットサンプルの形状、かさ比重、含水率

(2) 軒裏の性能評価試験

i) 試験方法

- ・ 軒裏の準耐火構造等の試験にあつては、評価対象の軒裏部分を、評価対象外の軒屋根部及び外壁に取り付け、これらを一体とした試験体を実際の火災を想定した火炎を発生させる加熱炉に据え付け、ISO 834に規定された標準加熱曲線に応じて加熱する。

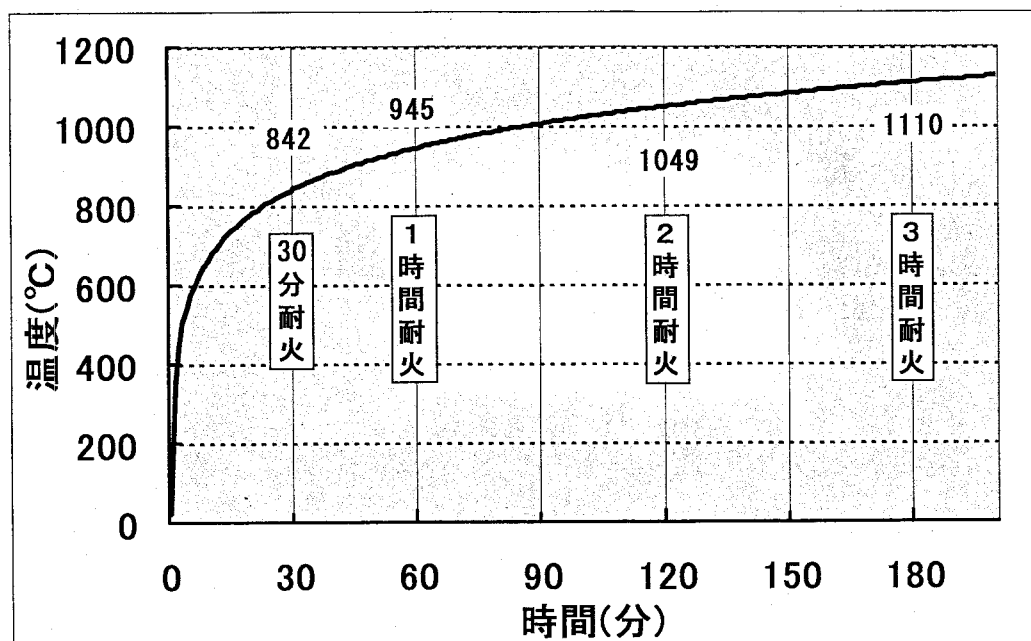


図 3 : ISO834の標準加熱曲線

ii) 判定方法

- ① 標準板に設置された3箇所以上の熱電対によって計測される最高温度上昇値が180K以下であること。
- ② 標準板に設置された3箇所以上の熱電対によって計測される平均温度上昇値が140K以下であること。
- ③ 標準板の非加熱面側に10秒以上を超えて継続する火炎の噴出及び発炎がなく、かつ、標準板に火炎が通る亀裂等の損傷が生じないこと。

(3) 間仕切壁の性能評価試験

i) 試験方法

- ・ 間仕切壁の耐火構造等の試験にあつては、間仕切壁の試験体を実際の火災を想定した火炎を発生させる加熱炉に据え付け、ISO 834に規定された標準加熱曲線に応じて加熱する。

ii) 判定方法

- ① 間仕切壁の裏面側に設置された5箇所以上の熱電対によって測定された最高温度上昇値が180K以下
- ② 間仕切壁の裏面側に設置された5箇所以上の熱電対によって測定された平均温度上昇値が140K以下
- ③ 加熱中、試験体の非加熱面側に10秒を超えて継続する火炎の噴出及び発炎がなく、かつ、試験体に火炎が通る亀裂等の損傷が生じない
- ④ 試験体の最大軸方向収縮量が $h/100$ (mm)以下であり、かつ、試験体の最大軸方向収縮速度が $3h/1000$ (mm/分)以下 (h :試験体の初期高さ)

※④は耐力壁の場合のみの判定基準

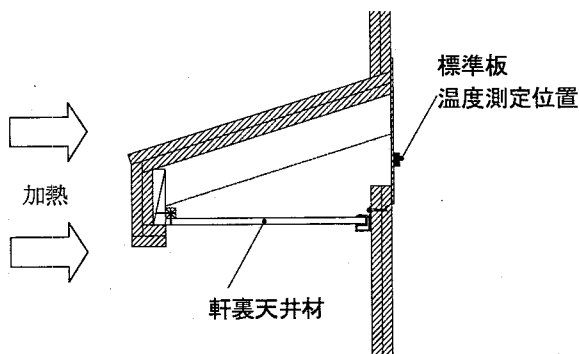


図3：軒裏の性能評価試験

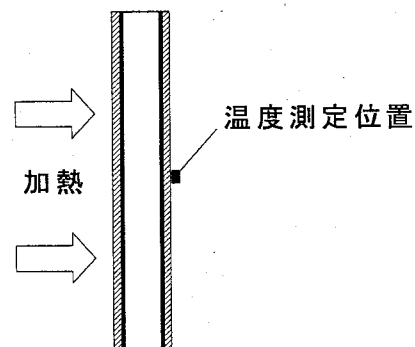


図4：壁の性能評価試験

(4) 不燃材料・準不燃材料の性能評価試験

i) 試験方法について

- ・不燃材料・準不燃材料の性能評価試験は、一定の輻射熱(50 k W/m^2)を受けている材料の発熱量等を評価するための発熱性試験(コーンカロリメーター試験)と、建築材料から発生する燃焼ガスの有害性を評価するためのガス有害性試験からなる。

ii) 判定方法

【発熱性試験】

- ① 加熱開始後20分間の総発熱量が 8 MJ/m^2 以下となること。
- ② 加熱開始後20分間、裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。
- ③ 加熱開始後20分間、最高発熱速度が10秒以上継続して 200 k W/m^2 を超えないこと。

※準不燃材料の場合、「20分間」を「10分間」で読み替える。

【ガス有害性試験】

- 加熱された試験体から発生する燃焼ガス環境下において、マウスの平均行動停止時間 X_s が6.8分以上であること。

$$X_s = X - \sigma$$

- (X : 8匹のマウスの行動停止までの時間の平均値 (単位: 分)
 σ : 8匹のマウスの行動停止までの時間の標準偏差 (単位: 分))

※申請されている材料の組成について、有機質量の合計が $200\text{g}/\text{m}^3$ 以下の場合には、ガス有害性試験は省略することが可能である。

3. 不正受験の概要

(1) 軒裏の試験体における不正【ニチアス㈱】

- ・ニチアス㈱の軒裏については、屋根の裏側部分の含水率を高くする等の操作を加えることにより、軒裏空間の熱伝達を遅らせ、標準板の温度測定位置の温度上昇を抑えるようにしていた。
- ・不正の内容については下表の通り。

対象箇所	認定申請仕様	不正試験体仕様
屋根部耐火被覆材 (評価対象外)	・繊維混入けい酸カルシウム板 (含水率5%以下【気乾状態】)	・保水性の高い塩化カルシウム水溶液を含浸させた繊維混入けい酸カルシウム板 (含水率10~30%)
軒裏天井材	・繊維混入けい酸カルシウム板	・より耐火性の高い繊維混入けい酸カルシウム板
軒裏天井材の塗料	・有機系アクリルウレタン系塗料 ・塗布量400g/m ²	・水性リシンベース塗料 ・塗布量100g/m ²
タッピンねじ	・φ3×25mm	・φ4×65mm~75mm

表3：軒裏に係る性能評価試験における不正の内容

(2) 間仕切壁の試験体における不正【ニチアス㈱】

- ・ニチアス㈱の間仕切壁については、面材の繊維混入けい酸カルシウム板の含水率を高くする等の操作を加えることにより、間仕切壁の中の熱伝達を遅らせ、裏面側の温度測定位置の温度上昇を抑えるようにしていた。
- ・不正の内容については下表の通り。

対象箇所	認定申請仕様	不正試験体仕様
面材	・繊維混入けい酸カルシウム板 (含水率5%)	・より耐火性の高い繊維混入けい酸カルシウム板 ・保水性を高めるために塩化カルシウム水溶液を含浸 (含水率7~15%)
接着剤	・有機系のアクリル樹脂系接着剤 (発熱量大)	・無機系のけい酸質接着剤 (発熱量小)
留め付け方法	・ステーブル又はビスのいずれか	・ステーブルによる固定に加えて面材の剥落防止のために目地部周囲をビス留め

表4：間仕切壁に係る性能評価試験における不正の内容

(3) 不燃材料・準不燃材料の試験体における不正【東洋ゴム工業㈱】

- ・東洋ゴム工業㈱の準不燃材料の試験体については、評価対象となる充填材のイソシアヌレートフォームについて、水酸化アルミニウムを多量に混合させた受験用の試験体で使用されていた。具体的には、ウレタン配合に際して水酸化アルミニウムを多量に混合させて燃えにくくした状態のフォーム板を用いてパネルを作成し、準耐火構造及び防火構造の壁に係る燃焼試験を受験していた。
- ・また、認定仕様では難燃材料を5%以下としていたにもかかわらず、性能評価試験の試験体については、全樹脂量の10%の難燃剤（りん酸エステル系）を混入していた。
- ・不正の内容については以下のとおり。

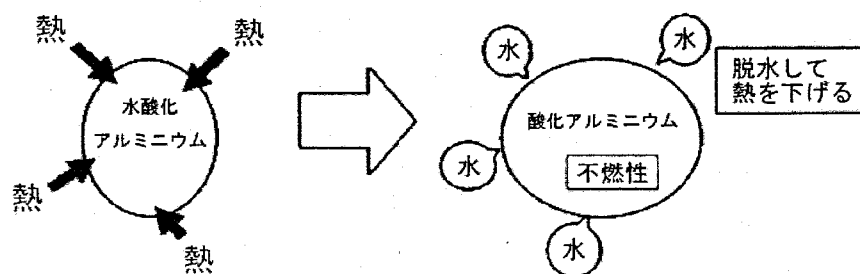
対象箇所	認定申請仕様	不正試験体仕様
芯材	・イソシアヌレートフォーム板	・水酸化アルミニウム混入イソシアヌレートフォーム板
芯材及び表面材	・混入した難燃剤の量が全樹脂量の5%以下	・混入した難燃剤の量が全樹脂量の10%

表5：不燃材料・準不燃材料に係る性能評価試験における不正の内容

- ・なお、東洋ゴム工業㈱が取得している防火構造の外壁（PC030NE-9165）及び準耐火構造の外壁（QF045BE-9194、QF045-BE-9195）については、これらの不正取得した認定を用いた準不燃材料を使用したものであるため、同様に認定を取り消している。

【参考：水酸化アルミニウムによる吸熱効果】

- ・水酸化アルミニウムは300～350℃に加熱すると、酸化アルミニウムと水に分解される。この熱分解時における吸熱効果により、水酸化アルミニウムが混入されたイソシアヌレートフォームについては温度上昇や発火が抑制される。また、熱分解によって生じる酸化アルミニウムは難燃性物質であることから、燃焼の遅延について補完的な役割が期待される。



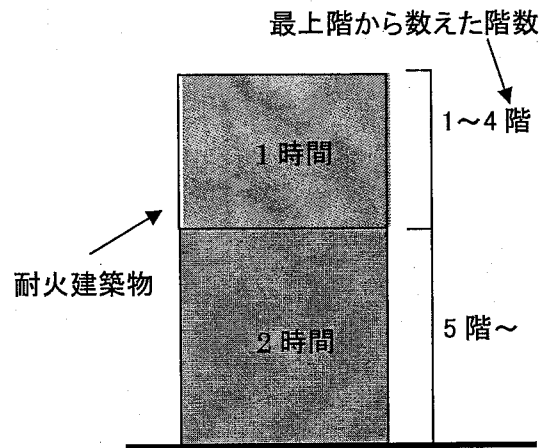
耐火性能試験 ～外壁(耐力壁)～

外壁(耐力壁)の耐火性能とは

耐火建築物などに使われる外壁は、使用する階によって図及び表のように示された時間の耐火性能を有することが必要である。

この場合の耐火性能とは、非損傷性、遮熱性及び遮炎性の三つの要求性能のことをいう。

部分	階	
	最上階から数えた階数	
壁	1階～4階	5階～
	1時間	2時間



試験方法

1. 試験体取り付け

壁炉前面に試験体を設置し、長期許容応力度に相当する応力を発生させる圧縮荷重を載荷する。

2. 加熱方法

加熱温度が ISO に規定されている標準加熱温度曲線となるよう、要求される耐火性能時間に応じた加熱を行う。

3. 加熱時間

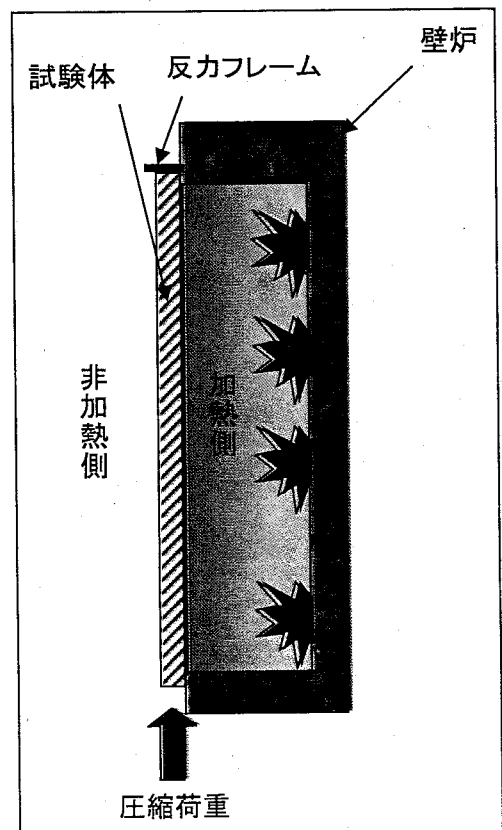
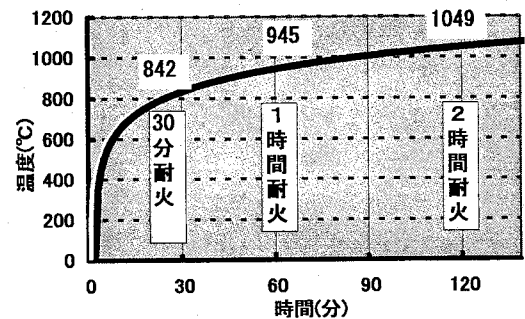
試験時間は、以下の2通りが設定されている。

- (1) 加熱時間を要求加熱時間と同じ時間とし、加熱終了後、要求加熱時間の 3 倍の時間、試験体を炉内において放冷する。(載荷試験の場合は、放冷中も載荷を継続。)
- (2) 加熱時間を要求耐火時間の 1.2 倍の時間とする。

4. 判定方法

加熱・放冷過程の間、次の基準を満足する場合に合格となる。

- (1) 非損傷性 (h: 試験体の初期高さ(mm))
 - ① 最大軸方向収縮量(mm): $h/100$ 以下
 - ② 最大軸方向収縮速度(mm/分): $3h/1000$ 以下
- (2) 遮熱性
 - ① 試験体の裏面温度上昇が、平均で 140K 以下
 - ② 試験体の裏面温度上昇が、最高で 180K 以下
- (3) 遮炎性
 - ① 非加熱側へ 10 秒を超えて継続する火炎の噴出がない
 - ② 非加熱面で 10 秒を超えて継続する発炎がない
 - ③ 火炎が通る亀裂等の損傷を生じない



【該当条文】

- ・建築基準法第 2 条第七号
- ・建築基準法施行令第 107 条第一号、第二号及び第三号

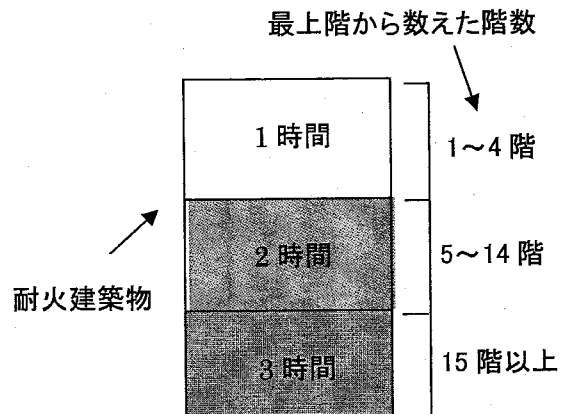
耐火性能試験 ～柱～

柱の耐火性能とは

耐火建築物などに使われる柱は、使用する階によって図及び表のように示された時間の耐火性能を有することが必要である。

この場合の耐火性能とは、火災による破壊その他の損傷を生じない性能(非損傷性)のことをいう。

部分	最上階から数えた階数		
	1階～4階	5階～14階	15階以上
柱	1時間	2時間	3時間



試験方法

1. 試験体取り付け

柱炉に試験体を設置し、長期許容応力度に相当する応力を発生させる圧縮荷重を載荷する。

2. 加熱方法

加熱温度がISOに規定されている標準加熱温度曲線となるよう、要求される耐火性能時間(以下「要求耐火時間」という。)に応じた加熱を行う。

柱は4方向から加熱する。

3. 試験時間

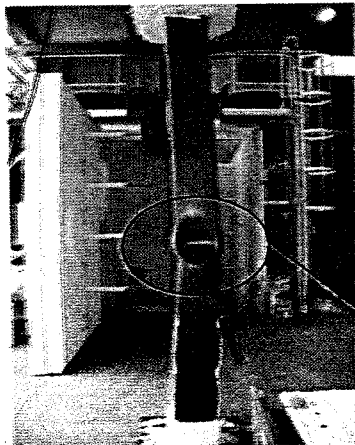
試験時間は、以下の2通りが設定されている。

- (1) 加熱時間を要求加熱時間と同じ時間とし、加熱終了後、要求加熱時間の3倍の時間、試験体を炉内において放冷する。(載荷試験の場合は、放冷中も載荷を継続。)
- (2) 加熱時間を要求耐火時間の1.2倍の時間とする。

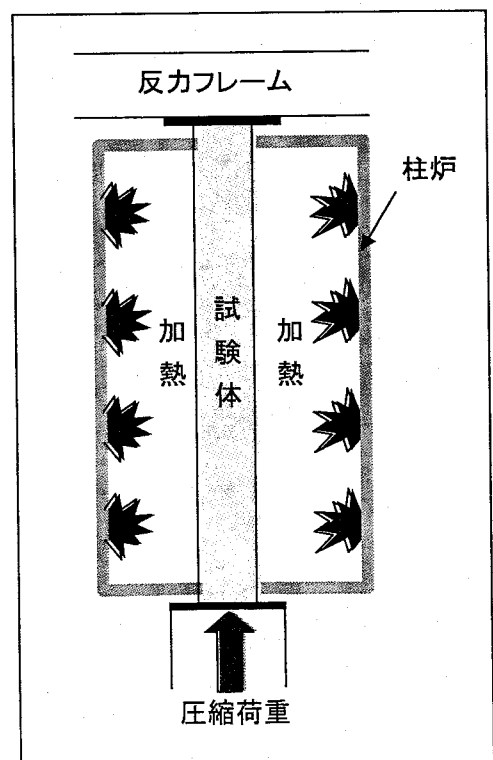
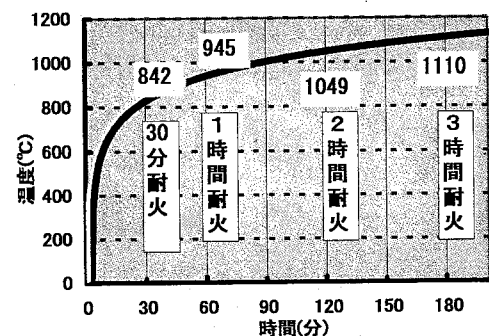
4. 判定方法

加熱・放冷過程の間、次の基準を満足する場合に合格となる。

- ① 最大軸方向収縮量(mm): $h/100$ 以下
 - ② 最大軸方向収縮速度(mm/分): $3h/1000$ 以下
- h : 試験体の初期高さ(mm)



試験終了後の試験体の状況
(局部座屈が生じ不合格となった例)



鋼材部の温度上昇による局部座屈

【該当条文】

- ・ 建築基準法第2条第七号
- ・ 建築基準法施行令第107条第一号

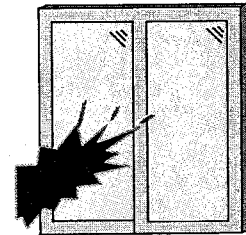
遮炎性能試験 ～防火設備・特定防火設備～

防火設備とは

防火設備: 延焼防止を目的として外壁の延焼のおそれのある部分及び防火区画の開口部に設けられる防火戸その他の設備のこと。

屋内からの火炎を最小限に食い止めて内部における延焼を防止し、屋外からのもらい火を遮り、外部からの延焼を防止するために設けられる。

(20 分間の遮炎性能)



特定防火設備: 両面から火炎を遮断することができ、耐火建築物内の防火区画に用いる開口部に設けられる防火戸その他の設備のこと。

(60 分間の遮炎性能)

防火設備の遮炎性能試験

1. 試験体取り付け

試験体を壁炉前面に設置する。

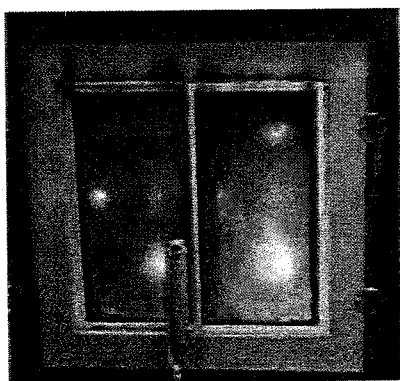
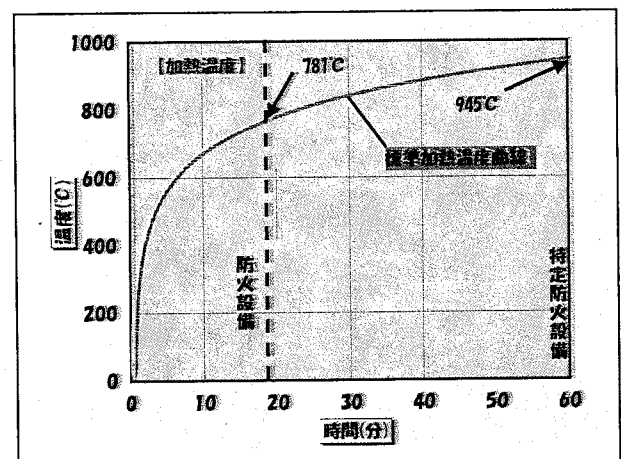
2. 加熱方法・試験時間

加熱温度が ISO に規定されている標準加熱温度曲線となるよう、防火設備は 20 分間、特定防火設備は 60 分間の加熱を行う。

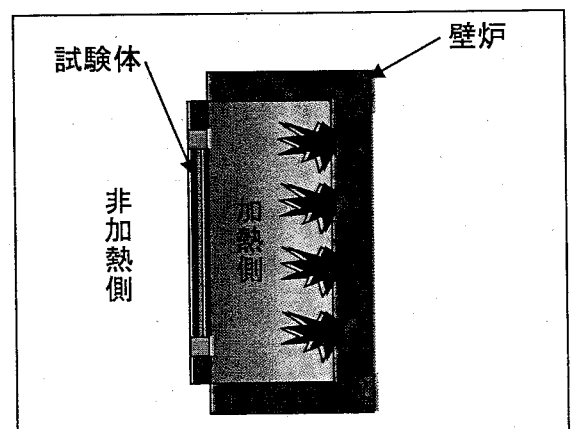
3. 判定方法

加熱時間中、以下の基準を満足する場合に合格となる。

- ①非加熱側へ 10 秒を超えて継続する火炎の噴出がないこと。
- ②非加熱面で 10 秒を超えて継続する発炎がないこと。
- ③火炎が通る亀裂等の損傷および隙間を生じないこと。



非加熱側の試験体の状況



【該当条文】

- ・建築基準法第 2 条第九号の二口
- ・建築基準法第 64 条
- ・建築基準法施行令第 112 条第 1 項

発熱性試験 ～不燃材料～

不燃材料の発熱性試験は、図1の装置を用いて、試験体の発熱速度及び総発熱量の測定等を行い、加熱開始後 20 分間※において、下記の判断基準を満足した場合に合格となる。

※準不燃材料は 10 分間、難燃材料は 5 分間。

- ① 総発熱量が $8\text{MJ}/\text{m}^2$ 以下であること。(燃焼しない性能)
- ② 防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。(防火上有害な損傷を生じない性能)
- ③ 最高発熱速度が、10 秒以上継続して $200\text{kW}/\text{m}^2$ を超えないこと。(避難上有害な煙・ガスを生じない性能)

発熱速度、総発熱量とは

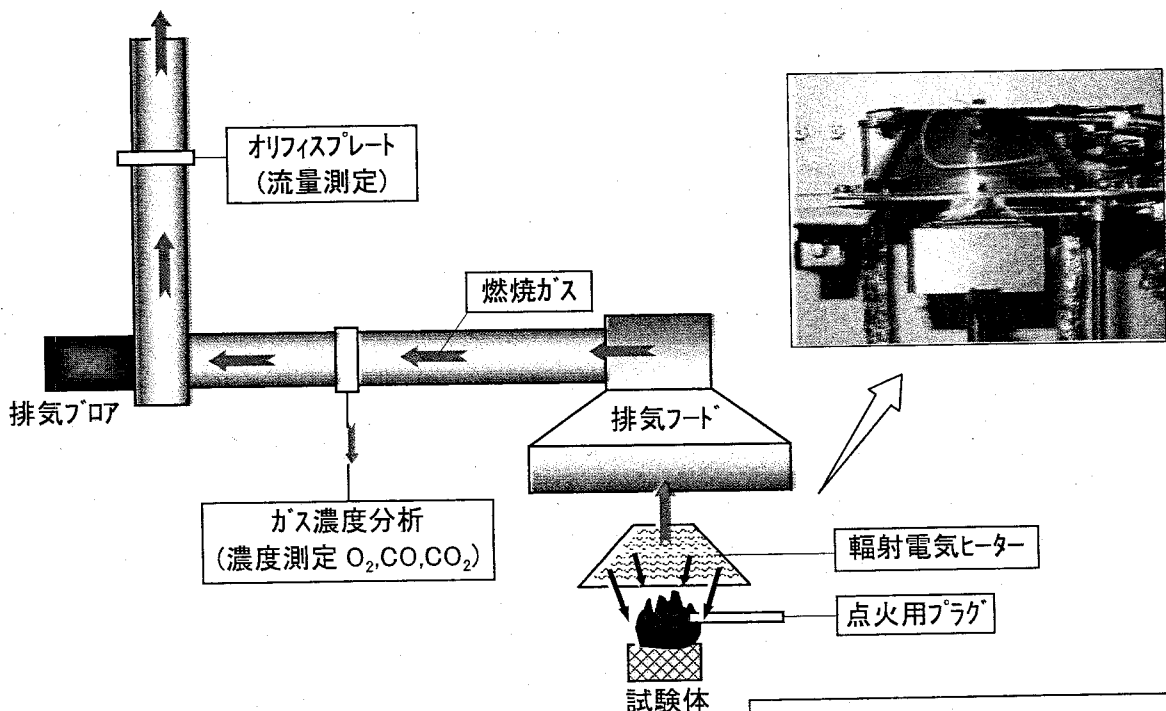
発熱速度 (kW/m^2) とは、物が燃える時に発生するエネルギーのことであり、総発熱量 (MJ/m^2) は、燃焼開始から終了までの時間の発熱速度を累積した値を表したものである。一般的には発生するエネルギーが小さい程、防火性能が優れている。

試験方法

試験体の個数は3個とし、原則として製品から採取するものとする。また、試験体は一辺の大きさが約 10 cm の正方形とする。

試験体に輻射電熱ヒーターにより輻射熱 ($50\text{kW}/\text{m}^2$) を照射した状態で、点火用プラグにより着火、燃焼させ、燃焼排気ガス中の酸素濃度と排気ガス流量を測定し、酸素消費法* により発熱速度を求める。

* 酸素消費法: 燃焼によって生ずる発熱量は、燃焼する物質の質量当たりで考えると物質毎に大きく異なるが、消費される酸素の質量で考えると物質の種類により異ならずほぼ一定の数値 (酸素 1kg 当たり 13.1MJ の熱が発生) を示すことを利用した方法。



試験装置概要

【該当条文】

- ・建築基準法第2条第九号
- ・建築基準法施行令第108条の2

Ⅱ. 自主報告による実態調査の結果

1. 調査概要

(1) 調査対象

- ・すでに大臣認定を取得している防耐火関連のすべての構造方法及び建築材料

【防耐火構造（約6,300件）

防火材料（約5,300件）

その他防火設備等を含め 計13,965件】

(2) 調査日程

- ・平成19年11月19日～12月21日
- ・1月以降、未回答の企業を対象に督促を実施。

(3) 調査項目

- ・本調査においては、これまでに認定を受けた全ての者を対象に調査票を送付し、過去に受験した性能評価試験の記録の調査や同社担当者への聴取等を含めた調査を依頼した。調査票における質問内容は以下のとおり。

- ① 不正な試験体による性能評価試験の受験の有無
- ② 性能評価書の改ざんの有無
- ③ 大臣認定を受けた仕様とは異なる仕様の構造方法等の販売等を行ったことの有無

2. 実態調査の結果（平成20年5月22日現在）

(1) 認定取得企業数

調査依頼郵送企業数	・・・(A)	1,788 社
報告困難と考えられる企業数	・・・(B)	130 社
報告企業数	・・・(C)	1,658 社
未報告企業数		0 社
回答率	$\frac{(C)}{(A)-(B)}$	100 %

(2) 認定件数

- ・書面による実態調査及び調査結果を受けたヒアリングの結果、以下のよ

うな事例が判明した。各事例について、今後の対応方針も含めた一覧表は以下のとおり。

調査対象件数（全大臣認定数）	・・・(A)	13,965 件
報告困難と考えられる企業の認定件数	・・・(B)	424 件
有効回答数	・・・(C)	13,541 件
大臣認定の取得又は大臣認定の認定書の使用について不正が行われていない旨の報告があったもの		13,411 件
疑義のある旨の報告があったもの		130件(50社)
(1) 認定申請仕様と異なる試験体によって性能評価試験を受験したことが確かめられたもの		12件(5社)
①当該認定を取り消したもの（※使用実績がない）		11件(5社)
②当初の大臣認定を取り消し、今後販売等を行う仕様で性能確認の試験を受験する準備をしているもの		0件
③認定仕様の試験体で性能が確認されたもの		1件(1社)
(2) 性能評価書の改ざんが確かめられた旨の報告があったもの		0件
(3) 大臣認定の仕様とは異なる仕様の構造方法等の販売等を行った旨の報告があったもの		118件(46社)
①販売等を行った仕様の試験体で性能が確認されたもの		56件(27社)
②販売等を行った仕様の試験体で性能確認の試験を受験する準備をしているもの		35件(13社)
③改修を指示したもの		17件(9社)
④当該認定を取り消すもの（※使用実績がない）		1件(1社)
⑤認定書の内容に誤りが含まれていたもの		9件(2社)
回答率	$\frac{(C)}{(A)-(B)}$	100 %

3. 国土交通省による企業への対応

- ・性能確認のための試験及び大臣認定が必要な事案については、実際に販売等を行った仕様での試験の実施を指示。
- ・使用実績がある構造方法・建築材料の場合は、当該構造方法・建築材料

が使用されている建築物を特定する旨を指示。

- ・ 建築基準法に適合しないことが明らかになったものについては、改修等の必要な対策を講じることを指示。
- ・ 今回の事案について原因究明を行い、再発防止策を検討し、国土交通省に報告するよう指示。
- ・ 相談窓口を設置し、適切に対応するよう指示。

2008年5月22日

【Ⅱ・参考資料：所要の性能を有しない構造方法・建築材料(改修対象)】

申請者	認定番号	名称	疑義の概要	現在の対応状況	使用実績
㈱ウッドワン	QM-0264	ウレタンアクリレート樹脂系塗装／無機りん酸・含水ほう酸塩系薬剤処理すざ板	・製品の管理が不適切であったため、薬剤が十分に含浸していない木材を販売した可能性があるとの報告。	・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・認定の取消し(1月8日)	29棟 (戸建住宅等) うち、12棟が改修済み。
㈱日本防災化学研究所	NM-0561	無機りん酸・窒素系薬剤処理／すざ板	・認定書には記載されていない塗装を施した状態で製品を出荷。 ・認定書の仕様には記載されていない塗装を現場において施す旨、パンフレット等で指示。	・販売仕様については試験不合格(発熱性試験) ・認定の取消し(2月8日) ※不燃材料としての要求がかかっている建築物については改修。なお、現在は準不燃材料としての試験準備中。	1棟 (調査中)
	NM-1423	無機りん酸・窒素系薬剤処理／木材		・販売仕様については試験不合格(発熱性試験) ・NM-1423の認定仕様については性能確認試験を実施。 ※不燃材料としての要求がかかっている建築物については改修。なお、現在は準不燃材料としての試験準備中。	4棟 (調査中)
YKK AP㈱	EB-0191	複層ガラス入アルミニウム合金製折りたたみ戸	・認定書では、気密材にシリコンゴムと記載されているところ、EPDM(エチレン・プロピレン・ジエン・モノマー)又はPVC(ポリ塩化ビニル)に変更して販売。 ・認定書では、ガスケットにシリコンゴムと記載されているところ、PVCに変更して販売。 ・認定書に記載されていたガラス押さえのコーナーピースを外して販売。	・販売仕様については試験不合格(3月3日・4日) ・EB-0191の認定仕様については試験合格(3月5日) ・既存の建築物については同社による改修を進めているところ。	590棟 (戸建住宅等)
日本軽金属㈱ (現在は日軽パネルシステム㈱が承継)	NM-0268	ポリイソシアヌレートフォーム充填／両面塗装溶融亜鉛めっき鋼板	・認定書では、芯材はポリイソシアヌレートフォームと記載されているところ、一部製品について硬質ウレタンフォームに変更して販売。	・一部の販売仕様については試験不合格(1月23日) ・NM-0268の認定仕様については試験合格(4月11日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。	206棟(うち14棟は是正済) 【工場のクリーンルーム、倉庫等】
	QM-9016	イソシアヌレートフォーム充填／両面着色亜鉛めっき鋼板	・認定書では、芯材はイソシアヌレートフォームと記載されているところ、一部製品について硬質ウレタンフォームに変更して販売。	・一部の販売仕様については試験不合格(1月23日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・認定の取消し(2月8日)	
積水化成工業㈱	PC030BE-9513	着色亜鉛めっき鋼板・ポリイソシアヌレートフォーム・着色亜鉛めっき鋼板表張／セッコウボード裏張／軽量鉄骨下地外壁	・昨年11月に準不燃材料としての認定が取り消されたパネル(QM-9763)を使用していたことが判明。	・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・改善仕様は試験合格の見込み(試験日は5月19日)	あり (調査中)

株式会社イーキ	FP060NP-9025	両面鋼板張／石綿スレート系パネル間仕切壁	・認定書では芯材は石綿スレート系パネルと記載されているところ、繊維混入けい酸カルシウム板を使用。	・一部の販売仕様については試験不合格(4月25日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・今後、改善仕様の認定を取得する予定。	90棟 (銀行等)
	FP060NP-9027	両面鋼板張／繊維混入けい酸カルシウム板間仕切壁	・認定書ではパネル連結部における加熱発泡剤の幅25mmとされているところ、15mmで販売。	・販売仕様については試験不合格(3月26日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・今後、改善仕様の認定を取得する予定。	8棟 (銀行等)
	FP060NP-9333	ロックウール充てん／両面塗装鋼板・せっこうボード重張間仕切壁	・認定書では芯材は石綿スレート系パネルと記載されているところ、繊維混入けい酸カルシウム板を使用。 ・塗装・接着剤について、認定書とは違う材料で販売。 ・笠木部分・巾木部分の仕様について、認定書とは違う仕様で販売。	・販売仕様については試験不合格(2月14日、15日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・改善仕様は試験合格(2月19日)	85棟 (事務所等)
	QF045NP-9049	両面鋼板・せっこうボード張／軽量鉄骨下地間仕切壁	・認定書では芯材は石綿スレート系パネルと記載されているところ、繊維混入けい酸カルシウム板を使用。 ・塗装・接着剤について、認定書とは違う材料で販売。 ・笠木部分・パネル下部の仕様について、認定書とは違う仕様で販売。	・販売仕様については試験不合格(2月20日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・今後、改善仕様の認定を取得する予定。	26棟 (事務所等)
	NM-8451	両面レーヨンクロス張／ロックウール積層中空板	・芯材の形状について、認定書とは違う仕様で販売。 ・接着剤について、認定書とは違う材料で販売。	・販売仕様については試験不合格(2月1日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・改善仕様は試験合格(4月末)	1,270棟 (事務所等)
	EB-9555	網入板ガラス入ペーパーコア充てん鋼製片引き戸	・認定書では引き戸及び戸袋パネルの鋼板の厚さ0.5mmと記載されているところ、0.6mmの仕様で販売。 ・塗装・接着剤について、認定書とは違う材料で販売。	・一部の販売仕様については試験不合格(3月28日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・今後、改善仕様の認定を取得する予定。	21棟 (事務所等)
	EB-9556	網入板ガラス入ペーパーコア充てん鋼製片引き戸	・認定書では引き戸の厚さ0.5mmと記載されているところ、0.6mmの仕様で販売。 ・塗装について、認定書とは違う材料で販売。	・販売仕様については試験不合格(3月18日、24日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・今後、改善仕様の認定を取得する予定。	34棟 (事務所等)
株式会社くろがね工作所	EB-0132	網入板ガラス鋼製片引き戸	・認定書の上では、網入ガラスの鋼線は「軟硬ALメッキ鋼線」とされているが、実際に使用しているのは「クロムメッキ軟鋼線」。	・販売仕様については試験不合格(5月14日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・今後、改善仕様の認定を取得する予定。	41棟 (病院等)
エムアールシー・デュボン(株)	RM-9037	水酸化アルミニウム・アクリル樹脂板	・認定書では水酸化アルミニウムの含有量65%とされているところ、51%~67%の仕様で販売。	・販売仕様については試験不合格(2月19日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・不合格となった仕様の材料を使用している既存の建築物(約11棟)については、建築基準法の適用を受けるかどうか調査中。	10棟 (共同住宅等)
三菱樹脂(株)	NE-9013	塩化ビニル樹脂フィルム張／金属板	・認定書では、接着剤について、塩ビ系又はアクリル系とされているところ、ポリエステル系を使用したものを販売。	・一部の販売仕様については試験不合格(2月2日)。 ・その他の販売仕様については試験に合格(3月17日)し、新たに認定を取得(4月24日)。 ・不合格となった仕様による材料を使用している既存の建築物(約200棟)については、建築基準法の適用を受けるかどうか調査中。	約200棟 (住宅)

Ⅲ. 防耐火構造に係るサンプル調査の状況

1. サンプル調査の概要

- ・ 構造方法等の認定（以下「大臣認定」という。）を受けている防耐火関連の構造方法及び建築材料について、市場から調達した材料で試験体を作成し、(独)建築研究所等において性能を確認するための試験（サンプル試験）を実施しているところ。

(1) 調査対象

防耐火関連の大臣認定 約 160件
 （防耐火構造 約 60件、防火材料 約 100件 等）

(2) 調査方法

- ・ 市場から調達した材料で大臣認定仕様の試験体を作成し、試験を実施。
- ・ 性能が確認できれば、終了。
- ・ 性能が確認できなかったものは、当該大臣認定を取得した企業にヒアリングを行い、原因が明らかとならない場合、再試験を行って性能の有無を確認する。

2. 調査結果（第2報・平成20年5月29日現在）

- ・ 必要な性能が確認されたものは、計32件となった。
- ・ 下表に掲げる柱及び壁の構造方法については、必要な性能を有しないことが確認された（計2件）。
- ・ 当該大臣認定については取り消し。

申請者	構造方法の名称	種別	認定番号	認定日	実績
大建工業(株)	グラスウール充てん／アクリルウレタン系樹脂塗装火山性ガラス質複合板表張／木製軸組造外壁	防火構造（30分）の外壁（耐力壁）	PC030BE-0432	H15. 12. 3	4棟 （住宅）
イソライト工業(株)	ALCパネル／アルミナシリケート系繊維フェルト合成被覆／鋼管柱	耐火構造（60分）の柱	FP060CN-0125	H16. 8. 10	23棟 （倉庫、工場等） （調査中）

3. 国土交通省による企業への対応

- ・原因究明を行い、再発防止策を検討し国土交通省に報告するよう指示。
- ・当該大臣認定を使用している建築物の特定及び当該建築物について建築基準法への適合性の確認を行い、不適合のものについて改修等の必要な対策を講じることを指示。
- ・当該企業が保有する他の大臣認定について、あらためて法適合性の確認を行うよう指示。
- ・相談窓口を設置し、適切に対応するよう指示。

IV. 今後の対策について

これまでに判明した事案の再発を防止するため、以下のような対策を検討することが必要。

[対応すべき課題]

[対策の方向]

■不正受験の防止

- ・認定時の性能評価試験での不正な試験体による受験の防止
- ・申請仕様と試験体の整合性の確保

- 試験体のチェックの厳格化
 - ・試験体のチェック、分析
- 試験体製作過程のチェック
 - ・製作途中での評価機関の立会等

(今回検討)

■認定後の性能の確保

- ・販売仕様と認定仕様の整合性の確保
- ・実際に販売・施工される構造・材料の性能の確保

- 認定後の継続的な性能確認
(市販品の抽出調査等)
- 認定仕様のルールの徹底

(次回以降検討)

■不適切事案が判明した際の対応

- 認定の取り消しや改善指示等のルールの整備

(次回以降検討)

1. 不正を覚知できなかった原因

- ・今般の不正受験について、性能評価を実施した機関である（財）ベターリビング及び（財）日本建築総合試験所からの報告によれば、不正を覚知できなかった原因は以下のように考えられる。

不正が行われた部分	不正を覚知できなかった原因
試験体の評価対象部分	・申請されていた試験体の仕様と実際に性能評価試験に供された試験体の仕様が一致していなかったが、従来のチェック方法では隠蔽部分（軒裏の場合、標準板を設置した後の密閉状態の軒裏空間）の状態を確認することができず、試験体の当該部分に加えられた不正を確認することが困難だったため。
試験体の評価対象部分以外の部分	・屋根・鼻隠・外壁など軒裏に係る性能評価試験における評価対象ではない部分については申請者において製作することとしており、機関において含水率等の物性を確かめることをしていなかったため。

表1：受験時に不正を覚知できなかった原因

2. 性能評価試験時における再発防止策（案）

（1）試験体の製作過程における管理体制の強化

- ・今後、構造方法等に係る試験体については、申請者又は試験体製作者が、機関敷地内のヤード又は機関があらかじめ認めた場所において製作することとし、その際、機関の職員が試験体作成の現場に立ち会い、その作成過程において不正が行われていないかどうかを確かめることとする。なお、試験体の作成に立ち会う者は、原則として、性能評価を行う機関の職員がその任に当たるのが望ましいが、作成現場への移動・現場での立ち会い等に係る時間・金銭の負担をできるだけ抑えるために、当該現場に近い他の性能評価機関の職員を嘱託扱いとする等の措置を許容する。

製作場所	立ち会い者
機関敷地内のヤード	・機関の職員
あらかじめ認めた場所	・機関の職員 ・機関の嘱託を受けた他の性能評価機関の職員

表2：試験体作成時の立ち会い者

（2）試験体の輸送過程における管理体制の強化

- ・試験体の製作後に、試験結果を操作するための不正な処理（加熱時の温度上昇を抑える目的で試験体の一部に水分を含ませる等）が行われることを

防ぐため、試験体製作の完了時点において、当該試験体を封印する。

- ・機関が試験所において試験体を受け取る際には、当該封印が破られていないことを確認する。

(3) 同一性を確認するための試験

- ・試験体の評価対象部分が申請図書に記載された評価対象と同一であることを確かめるため、試験体の製作過程で発生した端材等を確保し、当該端材等の密度・含水率等を測定して申請書に記載されている仕様との同一性を確認することとする。なお、申請書に記載されている仕様との同一性を確認するための試験としては、下表3のようなものが考えられる。

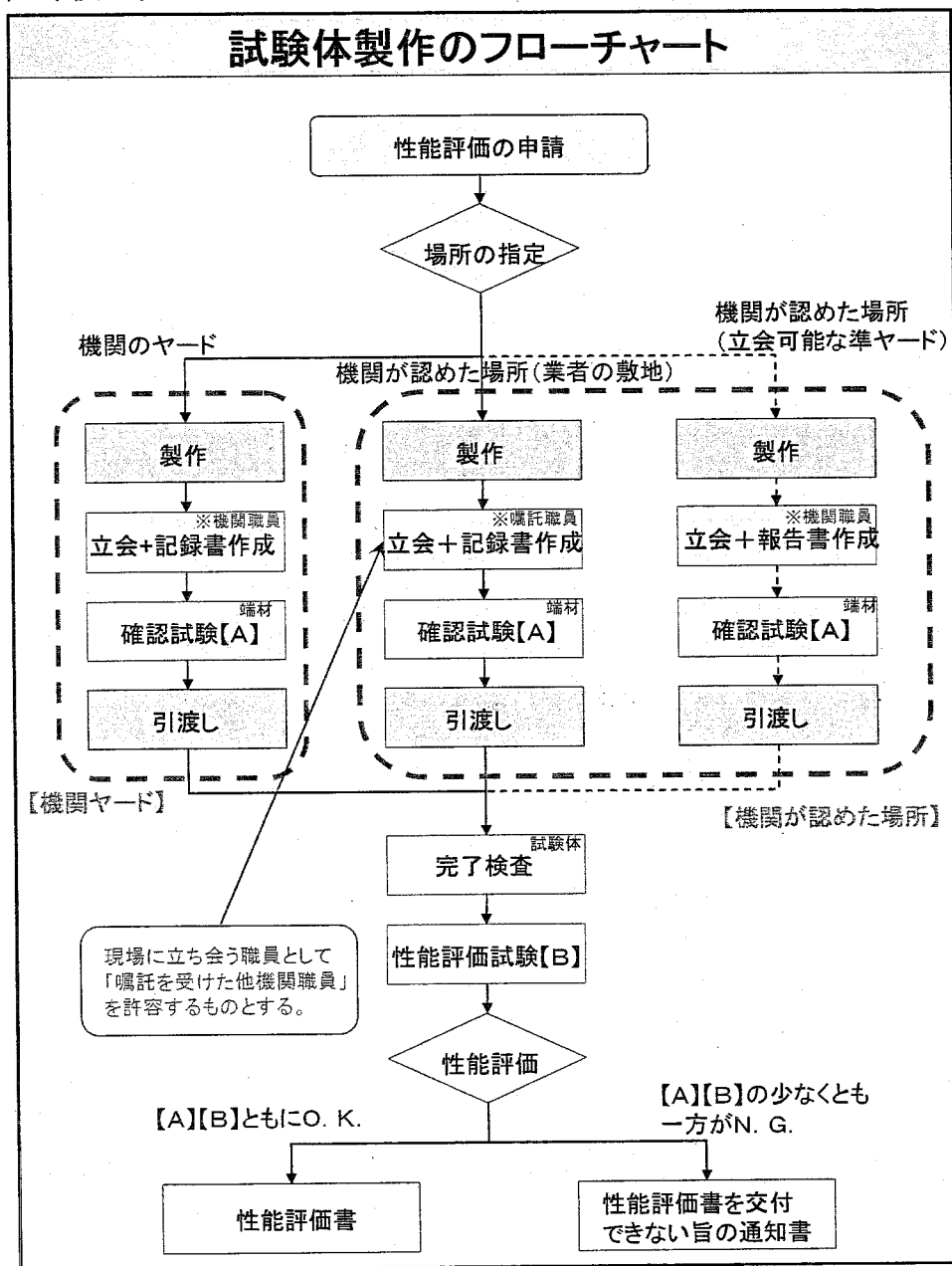
試験項目	試験体の状態		試験方法	試験内容等
	材質	形状		
密度 (強制)	すべての試験体について測定		重さ、体積から算出	密度が管理範囲値内にあることを確認する。
含水率 (強制)			気乾状態と絶乾状態の重量比較	適正に乾燥されていることを確認する。
断面形状 (強制)			目視	異物の調査(形状、色彩等)。フォーム材にあつては、不自然な気泡の発生の有無を確認する。
熱伝導率 (材料に応じて実施)	※材質は問われない	成型版	JIS A 1412-2:1999 [熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法—第2部:熱流計法(HFM法)]	熱伝導率を測定することにより、組成(無機材料の場合)、発泡倍率(有機材料の場合)に操作を加えていないかどうかを確認する。
電気伝導度(同上)	※材質は問われない	成型版	JIS R 3256:1998 [基板ガラス表面の電気抵抗率の測定方法]	電気抵抗値を測定することで、表面加工等によって保水性を向上させる操作を加えていないかどうかを確認する。
着火温度(同上)	可燃材料	※形状は問われない	JIS K 7193:1998 [プラスチック—高温空気を炉を用いた着火温度の試験方法]	引火温度・発火温度を測定することにより、燃焼性に寄与する薬剤の添加の有無を確認する。
軟化点(同上)	プラスチック材料	※形状は問われない	JIS K 7206:1999 [プラスチック—熱可塑性プラスチック—ビカット軟化温度(VST)試験方法]	軟化温度を測定することにより、プラスチックの重合度に操作を加えていないかどうかを確認する。

表3：申請仕様との同一性を確かめるための試験

(4) 試験体管理に係る規定の整備

- ・ 指定性能評価機関の業務方法書において、試験体の管理体制の厳格化に係るルールを新たに位置づける。
- ・ 試験体の製作現場における機関職員の立ち会い、申請仕様と試験体仕様の同一性を確かめるための試験の実施等には、一定の費用が必要と考えられるため、省令において規定されている性能評価手数料の額の見直しを検討する必要がある。

(5) 今後の性能評価の流れについて



V. 今後の予定 (案)

第1回 6月5日 (木)

- ・不正事案の実態について
- ・性能評価試験における試験体管理方法の見直しについて 等

第2回 7月上旬

- ・認定を受けた構造方法等に係る品質管理の方法について
- ・不正事案が判明した場合の対応ルールについて 等

第3回 8月上旬～中旬

- ・とりまとめ

【参考資料：防耐火関連の構造方法等の認定に関する実態調査における疑義案件】

※太枠で囲まれた部分は、今回更新された項目。
 ※※下線付は、今回追加された項目。

申請者	認定番号	名称		現在の対応状況	使用実績
(1) 認定申請仕様と異なる試験体によって性能評価試験を受験したことが確かめられたもの					
① 大臣認定を取り消したもの(※使用実績がない)					
㈱グレイスコーパーレシヨン	QM-0352	エチレン酢酸ビニル系樹脂塗装/ガラス繊維織物張/準不燃材料(金属板を除く。)	・認定書に記載されている表面塗装の質量が試験体の質量と相違(試験体仕様質量82g/m ² 、認定仕様135g/m ²)	・認定の取消し(1月17日)	なし
コニシ㈱	FP180CN-9052	プレキャストコンクリート板・吹付ロックウール合成被覆/鉄骨柱	・認定書に記載されている目地部のシーリング材の量が試験体の量と相違。(試験体仕様800g/m ² 、認定仕様600g/m ²)	・認定の取消し(1月17日)	なし
	FP180BM-9036	プレキャストコンクリート板・吹付ロックウール合成被覆/鉄骨はり			
住友スリーエム㈱	NM-9099	ガラス繊維混入無機質フェノール樹脂発泡板	・認定書ではフィルムの厚さ0.15mmとされているところ、フィルムの厚さがより薄いものを試験体として用いた旨の報告。	・認定の取消し(2月8日)	なし
	NM-9177	塩化ビニル樹脂系フィルム張/火山性ガラス質複層板	・認定書ではフィルムの厚さ0.15mmとされているところ、フィルムの厚さがより薄いものを試験体として用いた旨の報告。	・認定の取消し(2月8日)	なし
富士ファニチア㈱	EA-0187	天然木複合板・けい酸カルシウム板両面張木質系片開き戸	・認定書では難燃処理剤の処理量50kg/m ² とされているところ、試験体としては250kg/m ² の仕様のものを用いた旨の報告	・認定の取消し(2月8日)	なし
	EA-0218	ホウ酸系難燃処理木質系ボード・けい酸カルシウム板両面張木質系片開き戸	・認定書では難燃処理剤の処理量50kg/m ² とされているところ、試験体としては250kg/m ² の仕様のものを用いた旨の報告	・認定の取消し(2月8日)	なし
	EA-0219	ホウ酸系難燃処理木質系ボード・けい酸カルシウム板両面張木質系片開き戸	・認定書では難燃処理剤の処理量50kg/m ² とされているところ、試験体としては250kg/m ² の仕様のものを用いた旨の報告	・認定の取消し(2月8日)	なし
トヨタ自動車㈱	PC030BE-0920	人造鉱物繊維断熱材充てん/樹脂塗装繊維混入セメントけい酸カルシウム板表張/せっこうボード裏張/軽量鉄骨造外壁(制震装置付)	・評価書に記載されている間柱及び胴縁の材質(試験体仕様SS400、認定仕様SSC400)、胴縁の断面形状(試験体仕様PL-50×1.6、PL-40×1.6、認定仕様PL-45×1.6、PL-35×1.6)、外装材(試験体仕様1000×3025、認定仕様1000×3035)及び外装材留付け材(試験体仕様φ4.2×L32、認定仕様φ3.9×L28)の寸法が試験体の仕様と相違。	・認定の取消し(1月17日) ・試験不合格(2月14日)	なし
	PC030BE-0921	人造鉱物繊維断熱材充てん/樹脂塗装木繊維混入セメントけい酸カルシウム板表張/せっこうボード裏張/軽量鉄骨造外壁(制震装置付)		・認定の取消し(1月17日) ・試験不合格(2月14日)	
	PC030BE-0922	人造鉱物繊維断熱材充てん/タイル・樹脂塗装繊維混入セメントけい酸カルシウム板表張/せっこうボード裏張/軽量鉄骨造外壁(制震装置付)	・評価書に記載されている間柱及び胴縁の材質(試験体仕様SS400、認定仕様SSC400)、胴縁の断面形状(試験体仕様PL-50×1.6、PL-40×1.6、認定仕様PL-45×1.6、PL-35×1.6)、外装材留付け材(試験体仕様φ4.2×L32、認定仕様φ3.9×L28)の寸法が試験体の仕様と相違。	・認定の取消し(1月17日) ・試験不合格(1月29日)	
② 当初の大臣認定を取り消し、今後販売等を行う仕様で性能確認の試験を受験する準備をしているもの					
③ 認定仕様の試験体で性能が確認されたもの					
㈱グレイスコーパーレシヨン	NM-0952	エチレン酢酸ビニル系樹脂塗装/ガラス繊維織物張/不燃材料(金属板を除く。)	・認定書に記載されている表面塗装の質量が試験体の質量と相違(試験体仕様質量82g/m ² 、認定仕様135g/m ²)	・試験合格(3月14日)	5棟 (専門学校、事務所)
(2) 性能評価書の改ざんが確かめられた旨の報告があったもの					
(3) 大臣認定の仕様とは異なる仕様の構造方法等の販売等を行った旨の報告があったもの					
① 販売等を行った仕様の試験体で性能が確認されたもの					
セブン工業㈱	EB-0021	木製片開き戸	・認定書の仕様では框部分をゴム集成材としているにもかかわらず、当該部分をLVLとした製品を製造・販売。	・試験合格(12月14日) ・認定書交付(1月9日)	3棟 (ホテル、共同住宅)
日本リフェクス㈱	NM-8344	ポリエステルフィルム中空張/石綿けい酸カルシウム	・認定書の仕様では石綿けい酸カルシウム板を使用している部分について、けい酸カルシウム板を使用。	・試験合格(12月25日) ・認定書交付(1月9日)	2棟 (集会場、教会)
松下電工㈱	NE-9001	両面アクリル樹脂系・塩化ビニル樹脂系塗装/溶融亜鉛めっき鋼板	・認定書ではJIS G 3302の鉄板と記載されているところ、JIS G 3317の鋼板及び同等品を使用。	・試験合格(12月26日) ・認定書交付(1月29日)	あり (調査中)
	NE-9002	両面フッ素樹脂系塗装/溶融亜鉛めっき鋼板	・認定書ではJIS G 3302の鉄板と記載されているところ、JIS G 3317の鋼板及び同等品を使用。		あり (調査中)

株日本防災化学研究所	RM-0001	りん酸系薬剤処理/すざ板	・認定書の仕様には記載されていない塗装を施した状態で製品を出荷。 ・認定書の仕様には記載されていない塗装を現場において施す旨、パンフレット等で指示。	・試験合格(12月26日) ・認定書交付(3月11日)	あり(調査中)
	QM-0031	りん酸系薬剤処理/すざ板		・試験合格(1月8日) ・認定書交付(3月11日)	あり(調査中)
	QM-0236	無機りん酸・窒素系薬剤処理/すざ板	・認定書の仕様には記載されていない塗装を施した状態で製品を出荷。 ・認定書の仕様には記載されていない塗装を現場において施す旨、パンフレット等で指示。	・試験合格(1月8日) ・認定書交付(3月11日)	あり(調査中)
	QM-0437	無機りん酸・窒素系薬剤処理/ひのき板		・試験合格(1月8日) ・認定書交付(3月11日)	あり(調査中)
ザファリウッド協同組合	QM-0237	無機りん酸・窒素系薬剤処理/すざ板	・認定書には記載されていない塗装を施した状態で製品の出荷。	・試験合格(1月8日) ・認定書交付(3月11日)	あり(調査中)
	QM-0238	無機りん酸・窒素系薬剤処理/ひのき板			あり(調査中)
ユニチカグラスファイバー(株)	NM-0160	両面シリコン系樹脂塗装/ガラスクロス	・認定書では質量245.2g/m ² 以下と記載されているところ、255g/m ² の製品を使用。	・試験合格(10月30日) ・認定書交付(1月9日)	あり(調査中)
	NM-8356	両面塩化ビニル樹脂系塗装/ガラスクロス	・認定書では重量400±50g/m ² と記載されているところ、572g/m ² の製品を販売。 ・認定書には記載されていないアンチモン系防炎剤を混入。 ・認定書では幅930±15mmと記載されているところ、1,020mm、1,340mmの製品を販売。	・試験合格(1月23日) ・認定書交付(2月6日)	あり(調査中)
	NM-0903	両面塩化ビニル・アクリル共重合樹脂系塗装/ガラスクロス張/基材(不燃材料(金属板))	・認定書では最大有機質量64.5g/m ² 以下と記載されているところ、72g/m ² の製品を使用。 ・認定書では塩化ビニル・アクリル共重合樹脂系塗装と記載されているところ、ウレタン系樹脂塗装を併用。	・試験合格(2月8日) ・認定書交付(2月22日)	あり(調査中)
クリオン(株)	NM-9693	防錆鉄筋入セメントけい酸カルシウム板	・認定書に記載されているパネルの厚さ(35mm、50mm、100mm等)と異なる厚さ(70mm)で販売。 ・認定書の仕様では鉄筋を使用することとされているところでメタルラスを使用。	・試験合格(1月18日) ・認定書交付(2月26日)	あり(調査中)
リケンテクノス(株)	QM-9436	塩化ビニル樹脂層難燃処理壁紙張/不燃材料(金属板を除く)及び準不燃材料	・認定書では幅45cm~95cmと記載されているところ、幅122cmの製品を販売。	・試験合格(2月1日) ・認定書交付(3月26日)	あり(調査中)
株オーツカ	NM-9192	塩化ビニルフィルム張/ガラスウール製ダクト	・内部被覆材について、ガラスクロスの留付方法を、接着方式からはず留方式に仕様を変更。	・試験合格(2月4日) ・認定書交付(4月11日)	なし
	NM-9202	フレキシブルダクト	・内部被覆材について、ガラスクロスの留付方法を、接着方式からはず留方式に仕様を変更。	・試験合格(2月4日) ・認定書交付(4月11日)	なし
	NM-9397	アルミニウムはく・ポリエステルフィルム張/ガラスウールダクト	・認定書では外部被覆材の厚さ0.016mmと記載されているところ、0.056mmで販売	・試験合格(2月4日) ・認定書交付(4月11日)	あり(調査中)
大泰化工(株)	DR-0162	ガラス繊維入不飽和ポリエステル系樹脂塗/ポリエチレンテレフタレート樹脂フィルム張/ポリエステル繊維不織布・けい酸カルシウム板・普通合板張/木製下地屋根	・35mmのポリスチレンフォーム材を20mmで販売。 ・防水層の上部に有機質系裏張タイルを敷設。	・試験合格(2月13日) ・認定書交付(4月24日)	あり(調査中)
	DR-0311	ガラス繊維入不飽和ポリエステル系樹脂塗・ビーズ法ポリスチレンフォーム保温板裏張けい酸カルシウム板・木質系ボード表張/木製下地屋根	・防水層の上部に有機質系裏張タイルを敷設。		あり(調査中)
ヴェステック(株)	EB-9248	複層ガラス入木製滑り出し回転窓	・室内側縁及び障子縦枠について、認定書に記載されている仕様とは異なる仕様(銀杏加工、欠き落としの追加)で販売。	・試験合格(2月19日) ・認定書交付(4月21日)	約100棟(調査中・戸建)
株Bb Wood Japan	QM-0435	りん酸・窒素系薬剤処理すざ板/準不燃材料	・認定書には記載されていない塗装を施した状態で製品の出荷。	・試験合格(2月21日) ・認定書交付(3月26日)	4棟(店舗等)
南海プライウッド(株)	QM-9012	化粧紙張/せっこうボード	・認定書では紙張(23g/m ²)とされていたところ、塩ビクロスシート(300g/m ²)を張りつけた仕様で販売。	・試験合格(2月29日) ・認定書交付(4月21日)	あり(調査中)
東洋鋼板(株)	QM-9839	塩化ビニル樹脂フィルム張/金属板	・認定書では、接着剤について、塩ビ系又はアクリル系とされているところ、ポリエステル系を使用したものを販売。	・試験合格(3月17日)	あり(調査中)
	NE-9009	塩化ビニル樹脂フィルム張/金属板		・調査の結果、使用実績無し。	なし
日鐵住金建材(株)	QM-9841	塩化ビニル樹脂フィルム張/金属板	・認定書では、接着剤について、塩ビ系又はアクリル系とされているところ、ポリエステル系を使用したものを販売。	・試験合格(3月17日)	あり(調査中)
	NE-9011	塩化ビニル樹脂フィルム張/金属板		・調査の結果、使用実績無し。	なし
三菱樹脂(株)	NM-8693	塩化ビニル樹脂フィルム張/金属板	・認定書では、接着剤について、塩ビ系又はアクリル系とされているところ、ポリエステル系を使用したものを販売。	・試験合格(3月17日)	あり(調査中)
	QM-9843	塩化ビニル樹脂フィルム張/金属板		・試験合格(3月17日)	あり(調査中)
株ムサシパーティション工業	NM-9323	せっこうボード表張/着色亜鉛めっき鋼板	・認定書では表面材である亜鉛めっき鋼板の厚さ0.8mmとされているところ、0.6mmの仕様で販売。 ・認定書では接着剤はウレタン系樹脂とされているところ、クロロレンゴム系樹脂を使用して販売。	・試験合格(3月17日) ・認定書交付(5月7日)	あり
株日建板	FP030RF-9314	ガラスウール充填両面金属板張屋根	・認定書に記載されているタイトフレームの厚さ(3.2mm)と異なる厚さ(3.0mm)の製品を販売。	・試験合格(4月2日、4月22日)	あり(調査中)

三菱化学産資機	NM-0209	表面ふっ素樹脂系塗装/裏面ポリエステル樹脂系塗装/ポリエチレン系樹脂・水酸化アルミニウム充てん/両面アルミニウム合金板	・認定書では表面はふっ素樹脂系塗装とされているところ、ポリエステル樹脂系塗装の仕様の製品を販売。 ・認定書では裏面ポリエステル樹脂系塗料の質量5g/m ² とされているところ、60g/m ² の仕様の製品を販売。 ・認定書ではアルミニウム合金(JIS H 4000, 3105-H14)とされているところ、アルミニウム合金(JIS H 4000, 5205-H14)の製品を販売。	・試験合格(4月18日)	あり (調査中)
	NM-0229	ポリエチレン系樹脂・水酸化アルミニウム充てん/両面ステンレス鋼板	・認定書ではステンレス鋼板0.3mmとされているところ、0.4mmの製品を販売。 ・認定書では材料の厚さ4mmとされているところ、ポリエチレン系樹脂を増加させた5mm及び6mmの製品を販売。	・試験合格(2月29日) ・認定書交付(3月31日)	2棟 (用途については調査中)
	NM-0655	表面ふっ素樹脂系塗装/裏面ポリエステル樹脂系塗装/ポリエチレン系樹脂・水酸化アルミニウム充てん/両面アルミニウム合金板	・認定書では裏面はポリエステル樹脂系塗料8g/m ² とされているところ、ふっ素樹脂系塗料60g/m ² の仕様の製品を販売。	・試験合格(2月20日) ・認定書交付(3月3日)	あり (調査中)
YKK AP機	EA-9282	網入板ガラス入難燃ペーパーコア充てん鋼製片開き戸	・認定書では、枠の気密材にクロロブレンと記載されていた所、EPDM(エチレン・プロピレン・ジエン・モノマー)に変更して販売。 ・認定書に記載されていたガラス溝部のバックアップ材を外して販売。	・認定書交付(4月24日)	2,220棟 (共同住宅等)
機アルポリック	QM-9715	両面ウレタン樹脂系塗装/両面アルミニウム板張ポリエチレン板	・認定書では芯材の組成についてカーボンブラック0.2%・ブロム系難燃剤0.1%含有とされているところ、カーボンブラック0.1%・ブロム系難燃剤無添加の仕様の製品を販売。 ・両面ウレタン樹脂系塗装のところ、他の樹脂系塗装も販売	・試験合格(4月25日)	あり (調査中)
	QM-9801	両面塗装アルミニウム板張/水酸化アルミニウム・ポリエチレン系樹脂板	・認定書では表面はふっ素樹脂系塗装とされているところ、ポリエステル樹脂系塗装の仕様の製品を販売。 ・認定書では裏面ポリエステル樹脂系塗料の質量5g/m ² とされているところ、50g/m ² の仕様の製品を販売。	・試験合格(4月4日)	あり (調査中)
ゼオン化成機	QM-9857	両面不燃積層せっこうボード張/ブチル系合成ゴムシート板	・認定書では、重量7.2kg/m ² 以上の不燃材料(NM-8613)を使用するとされているところ、重量5.6~8.6kg/m ² の準不燃材料(QM-9828)に変更したものを販売。 ・認定書では、接着剤についてエポキシ樹脂150g/m ² を使用するとされているところ、酢酸ビニル系120g/m ² を使用したものを販売。	・試験合格(4月28日、30日)	なし ※現場で使用している可能性あり
	QM-9858	両面せっこうボード張/ブチル系合成ゴムシート板	・認定書では、重量9.6kg/m ² 以上の不燃材料(NM-8612)を使用するとされているところ、重量7.5~11.3kg/m ² の不燃材料(NM-8619)に変更したものを販売。 ・認定書では、接着剤についてエポキシ樹脂150g/m ² を使用するとされているところ、酢酸ビニル系120g/m ² を使用したものを販売。	・試験合格(4月28日、30日)	なし ※現場で使用している可能性あり
機イトーキ	NM-0140	せっこうボード裏張/レーヨン・アクリル混紡織物壁紙張/メラミン樹脂系塗装鋼板	・認定書では接着剤として酢酸ビニル樹脂系と記載されているところ、酢酸ビニル、でんぷん系混合を使用。 ・シーラーとして認定書には記載されていないシクロヘキサン系を使用。	・試験合格(2月8日)	103棟 (事務所等)
	FP060NP-0036	軽量気泡セメントモルタル充てん/両面鋼板張/間仕切壁	・パネル下部の仕様について、認定書とは違う仕様で販売。	・試験合格(5月13日)	75棟 (銀行等)
	FP060NP-9011	軽量コンクリート充てん/両面鋼板張間仕切壁	・認定書に記載されているパネル連結部の接続方法と異なる接続方法を使用。	・試験合格(5月2日、5月7日)	66棟 (銀行等)
	FP060NP-9313	石綿セメントけい酸カルシウム板・ロックウール充填/両面鋼板・せっこうボード重張間仕切り	・認定書では芯材は石綿スレート系パネルと記載されているところ、繊維混入けい酸カルシウム板を使用。 ・塗装・接着剤について、認定書とは違う材料で販売。 ・笠木部分・巾木部分の仕様について、認定書とは違う仕様で販売。	・試験合格(2月21日)	49棟 (事務所等)
	FP060NP-9349	両面鋼板・ロックウール板重張間仕切壁	・塗装・接着剤について、認定書とは違う材料で販売。	・再調査の結果、使用実績無し。	なし
シーアイ化成機	NM-8577	化粧繊維強化セメント板	・認定書では有機質総使用量は250g/m ² 以下とされているところ、284g/m ² 以下の仕様で販売。	・これらの仕様が、後に取得した他の認定(NM-0765)の仕様に適合することを確認。	あり

サンスター技研㈱	DR-0033	アクリル樹脂系塗膜防水材塗/繊維混入ケイ酸カルシウム板・合板張/木造下地屋根	<ul style="list-style-type: none"> 防水材の有機質量を変更 保護材の酢酸ビニル樹脂系エマルジョンをアクリル系樹脂エマルジョンに変更 防水材及び保護材のアクリル系樹脂エマルジョンの種類及び量の変更 プライマーの有機質量の増量及びアクリル系樹脂の種類変更 仕上塗の有機質量の増量 	<ul style="list-style-type: none"> 試験合格(2月15日) 認定書交付(3月6日) 	あり(調査中)
	DR-0158	ポリエステル繊維クロス入/アクリル系樹脂エマルジョン塗/構造用合板重張/木製下地屋根	<ul style="list-style-type: none"> プライマーの有機質量の増量及びアクリル系樹脂エマルジョンの種類変更 防水材及び保護材のアクリル系樹脂エマルジョンの種類及び量の変更 上塗の有機質量の増量 	<ul style="list-style-type: none"> 試験合格(2月15日) 認定書交付(3月6日) 	あり(調査中)
タキロン株式会社	NM-9376	両面アルミニウム板張/繊維混入水酸化アルミニウム成形板	<ul style="list-style-type: none"> 認定書ではアルミニウム板(JIS H4000, A1050P-H24)とされているところ、アルミニウム板(JIS H4000, 3004系)の製品を販売。 	<ul style="list-style-type: none"> 試験合格(3月13日) 	あり(調査中)
北越製紙㈱	NM-8160	パルプ混入水酸化アルミニウム板	<ul style="list-style-type: none"> 認定書に記載されている水酸化アルミニウム(難燃剤)の割合等が、実製品とは異なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 試験合格(4月17日) 	あり(調査中)
	NM-8286	パルプ混入水酸化アルミニウム板	<ul style="list-style-type: none"> 認定書に記載されている水酸化アルミニウム(難燃剤)の割合等が、実製品とは異なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 試験合格(4月17日) 	あり(調査中)
積水樹脂プラメタル㈱	NM-9087	両面フッ素系樹脂塗装/アルミニウム板両面張/パルプ・ガラス繊維混入水酸化アルミニウム板	<ul style="list-style-type: none"> 認定書では両面はフッ素系樹脂塗装とされているところ、片面フッ素系樹脂塗装/片面エポキシ系樹脂塗装の仕様の製品を販売 認定書では裏面のアルミニウム板(JIS H4000 A1050P-H24)とされているところアルミニウム合金(JIS H4000 A3105P-H14)の製品を販売 	<ul style="list-style-type: none"> 試験合格(2月25日) 認定書交付(4月21日) 	調査中
	NM-9093	両面アクリル系樹脂塗装/アルミニウム板張/パルプ・ガラス繊維混入水酸化アルミニウム板	<ul style="list-style-type: none"> 認定書では両面アクリル系樹脂塗装とされているところ、両面ポリエステル系樹脂塗装の仕様の製品を販売 認定書では裏面のアルミニウム板(JIS H4000 A1050P-H24)とされているところアルミニウム合金(JIS H4000 A3104P-H26)の製品を販売 	<ul style="list-style-type: none"> 試験合格(3月8日) 認定書交付(4月21日) 	調査中
	QM-9014	両面アルミニウム板張/ポリエチレン板	<ul style="list-style-type: none"> 認定書では表面化粧なしのところ化粧塗装(片面フッ素系樹脂塗装/片面エポキシ系樹脂塗装、両面ポリエステル系樹脂塗装)した製品を販売 認定書では裏面のアルミニウム板 厚み0.2mm(JIS H4000 A1100P-H24)とされているところアルミニウム合金板 厚み0.5mm(JIS H4000 A3104P-H26)の製品を販売 	<ul style="list-style-type: none"> 試験合格(2月27日) 認定書交付(4月21日) 	調査中
	NM-0012	両面ポリエステル系樹脂塗装アルミニウム板張/繊維混入水酸化アルミニウム板	<ul style="list-style-type: none"> 認定書では裏面のアルミニウム板(JIS H4000 A1050P-H24)とされているところアルミニウム合金(JIS H4000 A3104P-H26)の製品を販売 	<ul style="list-style-type: none"> 試験合格(3月8日) 認定書交付(4月21日) 	調査中
	NM-0427	水酸化アルミニウム混入/ポリエチレン樹脂板充てん/両面フッ素系樹脂塗装アルミニウム板	<ul style="list-style-type: none"> 認定書では表裏面はフッ素系樹脂塗装とされているところ、両面ポリエステル系樹脂塗装、片面フッ素系樹脂塗装/片面ポリエステル系樹脂塗装の仕様の製品を販売 認定書では裏面のアルミニウム板(JIS H4000 A1050P-H24)とされているところアルミニウム合金(JIS H4000 A3105P-H14)の製品を販売 	<ul style="list-style-type: none"> 試験合格(2月17日) 認定書交付(4月21日) 	調査中
	NM-0550	水酸化アルミニウム混入/ポリエチレン樹脂板充てん/両面フッ素系樹脂塗装ステンレス鍍板	<ul style="list-style-type: none"> 認定書では表裏面はフッ素系樹脂塗装とされているところ、表裏面未塗装の仕様の製品を販売 	<ul style="list-style-type: none"> 試験合格(3月7日) 認定書交付(4月21日) 	調査中
	NM-0808	水酸化アルミニウム混入/ポリエチレン樹脂板充てん/両面フッ素系樹脂塗装アルミニウム板	<ul style="list-style-type: none"> 認定書では表裏面はフッ素系樹脂塗装とされているところ、両面ポリエステル系樹脂塗装、片面フッ素系樹脂塗装/片面ポリエステル系樹脂塗装の仕様の製品を販売 	<ul style="list-style-type: none"> 試験合格(3月10日) 認定書交付(4月21日) 	調査中
	② 販売等を行った仕様の試験体で性能確認の試験を受験する準備をしているもの				
福田金属箔粉工業㈱	RM-9338	両面ポリエステル樹脂系塗装・アルミニウム箔張/ポリエチレン樹脂板	<ul style="list-style-type: none"> 認定書に記載されている構造材の厚さ(樹脂:2.6mm)と異なる厚さ(2.4~2.5mm)の製品を販売。 	<ul style="list-style-type: none"> 試験予定 	あり(調査中)
㈱ユナイテッド	NM-9564	ガラス繊維りん酸セルロース混抄紙積層板	<ul style="list-style-type: none"> 混入されているセルロースとガラス繊維の混合比について、認定書とは異なる混合比で販売。 	<ul style="list-style-type: none"> 試験予定(5月中) 	あり(調査中)
綿半鋼機㈱	FP030RF-9249	グラスウール裏張ポリ塩化ビニル被覆金属板屋根	<ul style="list-style-type: none"> 認定書ではタイトフレームの厚さ4.5mmとされているところ、厚さ4.0mmの仕様で販売。 	<ul style="list-style-type: none"> 試験予定(5月19日) 	あり(調査中)
㈱ワールドガレージドア	EC-0026	木製オーバーライダーシャッター	<ul style="list-style-type: none"> 認定書ではセンター一番とローラーブラケットの板厚が3.2mmとされているところ、2mmの仕様で販売。 	<ul style="list-style-type: none"> 試験予定(6月) 	52棟

日新製鋼㈱ (※断熱亜鉛鉄板工業会 による通則認定)	FP030RF-9325	無機質断熱材裏張/金属板屋根	・認定書では、タイトフレームについて、3.2mm以上とされているところ、施工現場において、2.3mm(JIS A 6514)のものを使用している可能性がある旨の報告。	・一部の仕様については試験合格(2月25日、2月29日、5月2日、5月9日)。 ・残りの仕様についても、順次、試験を実施する予定。	あり(調査中)
	FP030RF-9326	無機質高充填フォームプラスチック裏張/金属板屋根			あり(調査中)
住友スリーエム㈱	NM-1146	ポリプロピレン樹脂フィルム・ウレタン系樹脂インキ・天然木単板・アルミニウムはく・ポリエステル樹脂フィルム張/不燃材料	・認定書では表面化粧材の厚さ0.326+0.04mm以下とされているところ、一部の製品において、0.386mmの仕様で販売。	試験予定	1棟 (商業施設)
オーククラウド㈱	RM-9031	難燃処理合板	・認定書では芯材に難燃剤を注入することになっていたところ、難燃剤を芯材には注入せずに、接着剤に注入するように仕様を変更して販売。	試験予定(6月末)	あり(調査中)
	RM-9033	難燃処理合板		試験予定(6月末)	あり(調査中)
	RM-9034	難燃処理合板		試験予定(6月末)	あり(調査中)
橋熊平製作所	FP060NP-9015	パーライトコンクリート充てん/両面鋼板張間仕切壁	・目板である鋼板厚2.3mmを6mmに変更。 ・耐火被覆材に押さえとなる鋼板を貼り付け。 ・耐火被覆材である石綿けい酸カルシウム板厚40mmと石綿スレートセラミックウールブランケット厚25mmに変更。 ・パーライトコンクリートを気泡コンクリートに変更。 ・パネル目地のアスベストリボンを取り外し。 ・ランナーである鋼板厚4.5mmを6.0mmに変更。 ・ランナーの形状を変更。 ・表面材の鋼板及び鋼帯SPCCをSEHCに変更。 ・パーライトコンクリート充てんパネルの最大巾648mmを666mmに変更。	試験予定(8月11日、12日)	1棟
	FP060NP-9016	コンクリート充てん/両面鋼板張間仕切壁	・目板である鋼板厚2.3mmを6mmに変更。 ・耐火被覆材に押さえとなる鋼板を貼り付け。 ・耐火被覆材である石綿けい酸カルシウム板厚40mmと石綿スレートセラミックウールブランケット厚25mmに変更。 ・パーライトコンクリートを気泡コンクリートに変更。 ・パネル目地のアスベストリボンを取り外し。 ・ランナーである鋼板厚4.5mmを6.0mmに変更。 ・ランナーの形状を変更。 ・表面材の鋼板及び鋼帯SPCCをSEHCに変更。 ・コンクリート充てんパネルの最大巾448mmを455mmに変更。	試験予定(7月3日)	19棟
	FP060NP-9017	パーライトコンクリート充てん/両面鋼板張間仕切壁	・目板である鋼板厚2.3mmを6mmに変更。 ・耐火被覆材に押さえとなる鋼板を貼り付け。 ・耐火被覆材である石綿けい酸カルシウム板厚40mmと石綿スレートセラミックウールブランケット厚25mmに変更。 ・パーライトコンクリートを気泡コンクリートに変更。 ・パネル目地のアスベストリボンを取り外し。 ・ランナーである鋼板厚4.5mmを6.0mmに変更。 ・ランナーの形状を変更。 ・表面材の鋼板及び鋼帯SPCCをSEHCに変更。 ・パーライトコンクリート充てんパネルの最大巾448mmを489mmに変更。	試験予定(5月23日、7月4日)	10棟
	FP060NP-9024	両面鋼板張/軽量気泡コンクリート板間仕切壁	・目板である鋼板厚2.3mmを6mmに変更。 ・耐火被覆材に押さえとなる鋼板を貼り付け。 ・軽量気泡コンクリート板の最大長さ2,850mmを3,000mmに変更。	試験予定(8月13日、14日)	1棟
	FP060NP-9026	気泡コンクリート充てん/両面鋼板張間仕切壁	・目板である鋼板厚2.3mmを6mmに変更。 ・天井面の耐火被覆材であるけい酸カルシウム板厚40mmをセラミックウールブランケット厚25mm、押さえとなる鋼板に変更。 ・床面及び壁面の耐火被覆材(けい酸カルシウム板)を取り外し。 ・パネル目地のセラミックファイバー布を取り外し。 ・ランナーである鋼板厚4.5mmを6.0mmに変更。 ・気泡コンクリート充てんパネルの最大長さ2,950mmを3,000mmに変更。	試験予定(8月11日、12日)	12棟
	FP060NP-9028	繊維混入軽量コンクリート充てん/両面鋼板張間仕切壁	・目板である鋼板厚2.3mmを6mmに変更。 ・耐火被覆材に押さえとなる鋼板を貼り付け。 ・軽量コンクリート充てんパネルの最大長さ2,850mmを3,000mmに変更。	試験予定(8月13日、14日)	6棟
	シーアイ化成㈱	NM-8677	塩化ビニル樹脂フィルム張/金属板	・認定書ではフィルムの厚さ0.10mm以下とされているところ、0.17mm以下の仕様で販売。 ・認定書とは異なる結合材を使用。	・これらの仕様が、後に取得した他の認定(NM-0765)の仕様に適合することを確認。 ・一部、適合しないものについては、性能評価の打ち合わせ中(過去の試験結果による評価)
上田第三木材合資会社	QM-0427	りん酸・窒素系薬剤処理/ヒノキ材	・認定書の仕様には記載されていない塗装を現場において施す旨、施工要領書等で指示。	試験予定	あり (調査中)
協同組合長野県信州からまつ工業会	RM-9010	難燃処理木材	・認定書の仕様には記載されていない塗装を現場において施す旨、施工要領書等で指示。	試験予定	あり (調査中)

三菱レイヨン(株)	PC030BE-9122	モルタル被覆・両面ガラス繊維ネット張セメントモルタル板表張/せっこうボード裏張/木製軸組造外壁		・試験予定	あり (調査中)
	PC030BE-9128	モルタル被覆・両面ガラス繊維ネット張セメントモルタル板・構造用合板表張/せっこうボード裏張/木製軸組造外壁		・試験予定	あり (調査中)
	PC030BE-9209	モルタル被覆・両面ガラス繊維ネット張セメントモルタル板表張/せっこうボード裏張/軽量鉄骨下地外壁		・試験予定	あり (調査中)
	PC030BE-0030	セメントモルタル塗/両面ガラス繊維ネット張セメントモルタル板表張/グラスウール充てん/せっこうボード裏張/木製軸組造外壁		・性能評価の打合せ中(過去の試験結果による評価)	あり (調査中)
	PC030BE-0074	グラスウール充てん/セメントモルタル塗/両面ガラス繊維ネット張セメントモルタル板表張/せっこうボード裏張/木製軸組造外壁		・性能評価の打合せ中(過去の試験結果による評価)	あり (調査中)
	PC030BE-0331	セメントモルタル塗・両面ガラス繊維ネット張セメントモルタル板・押出法ポリスチレンフォーム保温板表張/せっこうボード裏張/木製軸組造外壁		・性能評価の打合せ中(過去の試験結果による評価)	あり (調査中)
	PC030BE-0332	グラスウール充てん/セメントモルタル塗・両面ガラス繊維ネット張セメントモルタル板表張/せっこうボード裏張/木製軸組造外壁		・性能評価の打合せ中(過去の試験結果による評価)	あり (調査中)
	PC030BE-0675	セメントモルタル塗・両面ガラス繊維ネット張セメントモルタル板・押出法ポリスチレンフォーム保温板・構造用合板表張/せっこうボード裏張/木製軸組造外壁	使用している材料(両面ガラス繊維ネット張/セメントモルタル板)について、原料となるセメントの種類・割合を変更。	・性能評価の打合せ中(過去の試験結果による評価)	あり (調査中)
	PC030BE-0722	ポリスチレンフォーム保温板充てん/セメントモルタル塗・両面ガラス繊維ネット張セメントモルタル板表張/せっこうボード裏張/木製軸組造外壁		・性能評価の打合せ中(過去の試験結果による評価)	あり (調査中)
	QF045RS-9044	モルタル被覆・両面ガラス繊維ネット張セメントモルタル板張/木造下地・軽量鉄骨下地軒裏		・試験予定	あり (調査中)
	QF045BE-9085	モルタル塗・両面ガラス繊維ネット張セメントモルタル板・構造用合板表張/せっこうボード裏張/木製軸組造・木製枠組造・軽量鉄骨下地		・性能評価の打合せ中(過去の試験結果による評価)	あり (調査中)
	QF045BE-9092	モルタル塗・両面ガラス繊維ネット張セメントモルタル板・構造用合板表張/せっこうボード裏張/木製軸組造外壁		・性能評価の打合せ中(過去の試験結果による評価)	あり (調査中)
	QF045BE-0048	グラスウール充てん/セメントモルタル塗/両面ガラス繊維ネット張セメントモルタル板表張/せっこうボード裏張/木製軸組造外壁		・性能評価の打合せ中(過去の試験結果による評価)	あり (調査中)
QF060BE-0010	セメントモルタル塗/両面ガラス繊維ネット張セメントモルタル板張/せっこうボード重裏張/グラスウール充填/軸組造外壁		・性能評価の打合せ中(過去の試験結果による評価)	あり (調査中)	
QF060BE-0022	セメントモルタル塗/両面ガラス繊維ネット張セメントモルタル板張/グラスウール充てん/せっこうボード重裏張/枠組壁工法外壁		・性能評価の打合せ中(過去の試験結果による評価)	あり (調査中)	

③ 改修を指示したもの

株ウッドワン	QM-0264	ウレタンアクリレート樹脂系塗装/無機りん酸・含水ほう酸塩系薬剤処理/すげ板	・製品の管理が不適切であったため、薬剤が十分に含浸していない木材を販売した可能性があるとの報告。	・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・認定の取消し(1月8日)	29棟 (戸建住宅等)うち、12棟が改修済み。
株日本防災化学研究所	NM-0561	無機りん酸・窒素系薬剤処理/すげ板	・認定書には記載されていない塗装を施した状態で製品を出荷。 ・認定書の仕様には記載されていない塗装を現場において施す旨、パンフレット等で指示。	・販売仕様については試験不合格(発熱性試験) ・認定の取消し(2月8日) ※不燃材料としての要求がかかっている建築物については改修。なお、現在は準不燃材料としての試験準備中。	1棟 (調査中)
	NM-1423	無機りん酸・窒素系薬剤処理/木材		・販売仕様については試験不合格(発熱性試験) ・NM-1423の認定仕様について性能確認試験を実施。 ※不燃材料としての要求がかかっている建築物については改修。なお、現在は準不燃材料としての試験準備中。	4棟 (調査中)

YKK AP㈱	EB-0191	複層ガラス入アルミニウム合金製折りたたみ戸	<ul style="list-style-type: none"> ・認定書では、気密材にシリコンゴムと記載されているところ、EPDM(エチレン・プロピレン・ジエン・モノマー)又はPVC(ポリ塩化ビニル)に変更して販売。 ・認定書では、ガスケットにシリコンゴムと記載されているところ、PVCに変更して販売。 ・認定書に記載されていたガラス押さえのコーナーピースを外して販売。 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売仕様については試験不合格(3月3日・4日) ・EB-0191の認定仕様については試験合格(3月5日) ・既存の建築物については同社による改修を進めているところ。 	590棟 (戸建住宅等)
日本軽金属㈱ (現在は日軽パネルス テム㈱が承継)	NM-0268	ポリイソシアヌレートフォーム充てん/両面 塗装溶融亜鉛めっき鋼板	<ul style="list-style-type: none"> ・認定書では、芯材はポリイソシアヌレートフォームと記載されているところ、一部製品について硬質ウレタンフォームに変更して販売。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の販売仕様については試験不合格(1月23日) ・NM-0268の認定仕様については試験合格(4月11日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 	206棟(うち14 棟は是正済) 【工場のクリー ンルーム、倉庫 等】
	QM-9016	イソシアヌレートフォーム充てん/両面着色 亜鉛めっき鋼板	<ul style="list-style-type: none"> ・認定書では、芯材はイソシアヌレートフォームと記載されているところ、一部製品について硬質ウレタンフォームに変更して販売。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の販売仕様については試験不合格(1月23日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・認定の取消し(2月8日) 	
積水化成工業㈱	PC030BE-9513	着色亜鉛めっき鋼板・ポリイソシアヌレート フォーム・着色亜鉛めっき鋼板表張/せっこ うボード裏張/軽量鉄骨下地外壁	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年11月に準不燃材料としての認定が取り消されたパネル(QM-9763)を使用していたことが判明。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・改善仕様は試験合格の見込み(試験日は5月19日) 	あり (調査中)
㈱イトーキ	FP060NP-9025	両面鋼板張/石綿スレート系パネル間仕切 壁	<ul style="list-style-type: none"> ・認定書では芯材は石綿スレート系パネルと記載されているところ、繊維混入けい酸カルシウム板を使用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の販売仕様については試験不合格(4月25日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・今後、改善仕様の認定を取得する予定。 	90棟 (銀行等)
	FP060NP-9027	両面鋼板張/繊維混入けい酸カルシウム板 間仕切壁	<ul style="list-style-type: none"> ・認定書ではパネル連結部における加熱発泡剤の幅25mmとされているところ、15mmで販売。 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売仕様については試験不合格(3月26日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・今後、改善仕様の認定を取得する予定。 	8棟 (銀行等)
	FP060NP-9333	ロックウール充てん/両面塗装鋼板・せっこ うボード重張間仕切壁	<ul style="list-style-type: none"> ・認定書では芯材は石綿スレート系パネルと記載されているところ、繊維混入けい酸カルシウム板を使用。 ・塗装・接着剤について、認定書とは違う材料で販売。 ・笠木部分・巾木部分の仕様について、認定書とは違う仕様で販売。 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売仕様については試験不合格(2月14日、15日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・改善仕様は試験合格(2月19日) 	85棟 (事務所等)
	QF045NP-9049	両面鋼板・せっこボード張/軽量鉄骨下地 間仕切壁	<ul style="list-style-type: none"> ・認定書では芯材は石綿スレート系パネルと記載されているところ、繊維混入けい酸カルシウム板を使用。 ・塗装・接着剤について、認定書とは違う材料で販売。 ・笠木部分・パネル下部の仕様について、認定書とは違う仕様で販売。 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売仕様については試験不合格(2月20日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・今後、改善仕様の認定を取得する予定。 	26棟 (事務所等)
	NM-8451	両面レーヨクロス張/ロックウール積層中 空板	<ul style="list-style-type: none"> ・芯材の形状について、認定書とは違う仕様で販売。 ・接着剤について、認定書とは違う材料で販売。 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売仕様については試験不合格(2月1日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・改善仕様は試験合格(4月末) 	1,270棟 (事務所等)
	EB-9555	網入板ガラス入ペーパーコア充てん鋼製片 引き戸	<ul style="list-style-type: none"> ・認定書では引き戸及び戸袋パネルの鋼板の厚さ0.5mmと記載されているところ、0.6mmの仕様で販売。 ・塗装・接着剤について、認定書とは違う材料で販売。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の販売仕様については試験不合格(3月28日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・今後、改善仕様の認定を取得する予定。 	21棟 (事務所等)
	EB-9556	網入板ガラス入ペーパーコア充てん鋼製片 引き戸	<ul style="list-style-type: none"> ・認定書では引き戸の厚さ0.5mmと記載されているところ、0.6mmの仕様で販売。 ・塗装について、認定書とは違う材料で販売。 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売仕様については試験不合格(3月18日、24日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・今後、改善仕様の認定を取得する予定。 	34棟 (事務所等)
	㈱くろがね工作所	EB-0132	網入板ガラス鋼製片引き戸	<ul style="list-style-type: none"> ・認定書の上では、網入ガラスの鋼線は「軟硬ALメッキ鋼線」とされているが、実際に使用しているのは「クロムメッキ軟鋼線」。 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売仕様については試験不合格(5月14日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・今後、改善仕様の認定を取得する予定。

エムアールシー・デュボン 株	RM-9037	水酸化アルミニウム・アクリル樹脂板	・認定書では水酸化アルミニウムの含有量65%とされているところ、51%～67%の仕様で販売。	・販売仕様については試験不合格(2月19日) ・既存の建築物については同社による改修を予定。 ・不合格となった仕様の材料を使用している既存の建築物(約11棟)については、建築基準法の適用を受けるかどうか調査中。	10棟 (共同住宅等)
三菱樹脂株	NE-9013	塩化ビニル樹脂フィルム張/金属板	・認定書では、接着剤について、塩ビ系又はアクリル系とされているところ、ポリエステル系を使用したものを販売。	・一部の販売仕様については試験不合格(2月2日)。 ・その他の販売仕様については試験に合格(3月17日)し、新たに認定を取得(4月24日)。 ・不合格となった仕様による材料を使用している既存の建築物(約200棟)については、建築基準法の適用を受けるかどうか調査中。	約200棟 (住宅)
④ 大臣認定を取り消すもの(※使用実績がない)					
ロングホーム株	NM-0896	両面ガラス繊維クロス入/酸化マグネシウム板	・認定書には記載されていないレイヨン系不織布(有機材料)を加えた仕様であることが判明。	・報告日の翌々日に破産手続開始決定。 ・認定の取消し	なし ※不燃材料としての販売実績なし
⑤ 認定書の内容に誤りが含まれていたもの					
糊くろがね工作所	EB-9297	網入板ガラス入難燃ペーパーコア充てん鋼製片引き戸	・戸袋補強材の厚さについて、認定書の中で記載が不整合。(断面図では1.2mmとなっているが、仕様書では1.0mmとなっている。)	・認定書の訂正	あり (調査中)
せんい強化セメント板協会の会員企業	FP060BM-9391	スパンクリート壁パネル・繊維混入けい酸カルシウム板二種(1号)合成被覆鉄骨はり	・旧認定からの移行に際して、コンクリートの設計基準強度及びPC鋼より線の引張荷重・降伏荷重について、誤った数値を記入(kgfをニュートンに換算する際に、重力加速度9.8を掛けるべきところ、9.8で割っている。)	・実際に販売・施工した仕様の柱・はりが、日本スパンクリート協会の認定仕様と一致することを確認する。 (旧認定からの移行前において、せんい強化セメント板協会の会員企業の認定と、日本スパンクリート協会の認定は同一であった。)	あり (調査中)
	FP060BM-9392	スパンクリート壁パネル・繊維混入けい酸カルシウム板二種(2号)合成被覆鉄骨はり			
	FP120BM-9398	スパンクリート壁パネル・繊維混入けい酸カルシウム板二種(1号)合成被覆鉄骨はり			
	FP120BM-9399	スパンクリート壁パネル・繊維混入けい酸カルシウム板二種(2号)合成被覆鉄骨はり			
	FP060CN-9443	スパンクリート壁パネル・繊維混入けい酸カルシウム板二種(1号)合成被覆鉄骨柱			
	FP060CN-9444	スパンクリート壁パネル・繊維混入けい酸カルシウム板二種(2号)合成被覆鉄骨柱			
	FP120CN-9450	スパンクリート壁パネル・繊維混入けい酸カルシウム板二種(1号)合成被覆鉄骨柱			
	FP120CN-9451	スパンクリート壁パネル・繊維混入けい酸カルシウム板二種(2号)合成被覆鉄骨柱			